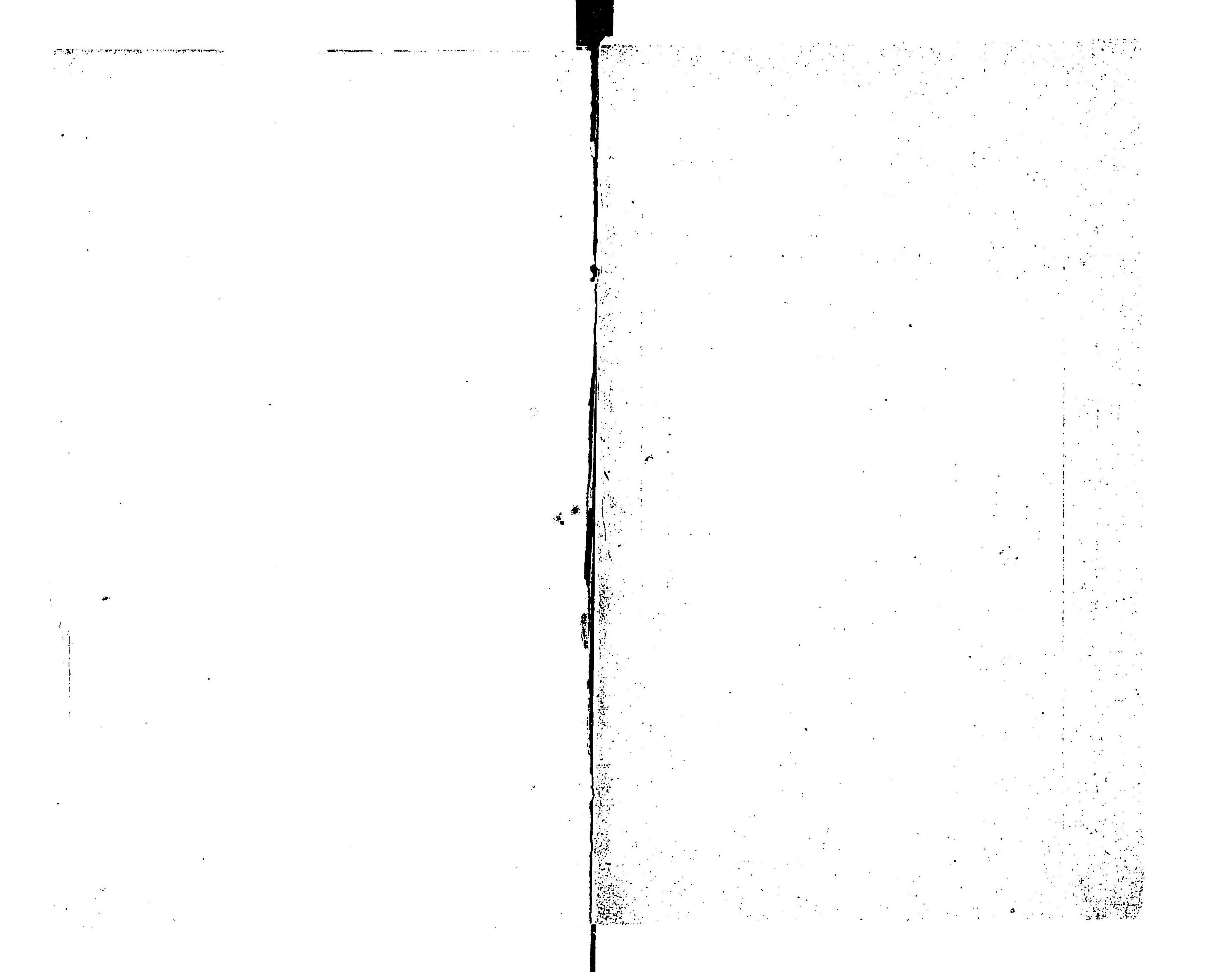


神學士 三井道郎君 校閱
天囚逸士 吉村鐘一君 編輯

真理之柱礎

全

東京 進々堂發兌



特21

142

W 18769/22

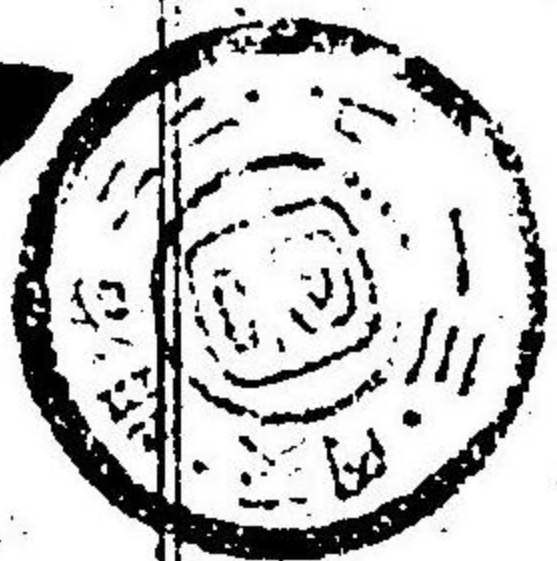


真理之柱礎

全

神學士 三井道郎君
天囚逸士 吉村鐘一君 編輯

校印



東京 進々堂發兌

眞理之柱礎序

凡ソ信仰ト懷疑ノ源因ハ人々ノ自身ニ存スル者多シ
人ノ死亡スルヤ其形体ノ忽チ腐朽シ去ルヲ以テ唯物
論士ハ之ヲ見テ物質界外又一物ノ存スベキ理ナシト
推論ス然レモ人ハ形体ノ腐朽ト共ニ全ク滅スル者ニ
非ズト確信スル者モ亦多シ今夫レ天文学ハ言ハズヤ
地球ハ宇宙ノ中心ニ非スシテ一個ノ微分子ニ過ギズ
ト果シテ地球ニシテ微分子タラハ其中ニ生活スル人
類ハ更ニ極微ノ分子ナラザル可ラズ此極微ノ分子タ
ル人類ニソ焉ゾ大能ノ神ノ眷顧ヲ煩ハス可キモノタ

序

文

(一)

ルヲ得ンヤト疑フ者アリ然レモ又此ノ極微ノ分子タル人類ガ彼ノ茫茫蒼々タル天体運動ノ法ヲ發見セシ等ヲ觀テ人ハ反テ神ノ照鑒ヲ被ル可キヲ多シト信スル者アリ嗚呼ドレーペルノ懷疑主義ヲ抱キシモ惟タ此ニ在リニユートンノ信仰深カリシモ惟タ此ニ在リ本來宗教ト理學トハ相和シテ并進スヘキ理ハ多辨ヲ要セスシテ明カナリ夫ノ歐洲ノ中原ニ於テ數百年間此事ニ就テ軋轢紛爭セシハ各々互ニ其本領ヲ守ラズシテ極端ニ驚セタルニ坐スルノミ

「真理之柱礎」ト名クル是ノ小冊子ハ聖書ニ基キ世界形

質論ト人類學ノ事ヲ主トシテ明釋セシ書ナリ夫レ世界ハ如何ニ生ゼシヤ人トハ何ゾヤトノ二問題ガ人心ニ必要ナルハ猶ホ衣服ト食物ノ二物カ人体ニ於ケルガ如キ關係ヲ有ス故ニ人トシテ右ノ二問題ニ傾意セサレハ是レ人ニシテ人ニ非ズト謂フモ可ナリ此書ハ正教ノ定理ヲ經トシ右二問題ニ關スル古今理學ノ諸說ノ粹ヲ拔テ緯トシタレハ基督教徒ノ爲メニハ有益ナル事尠ナカラス殊ニ古代教會ノ明師ノ說ヲ引用シタルヲ以テ正教ノ信者ニハ最モ必要ナル事疑ナシ

明治二十二年六月中浣

神學士 岩澤丙吉撰

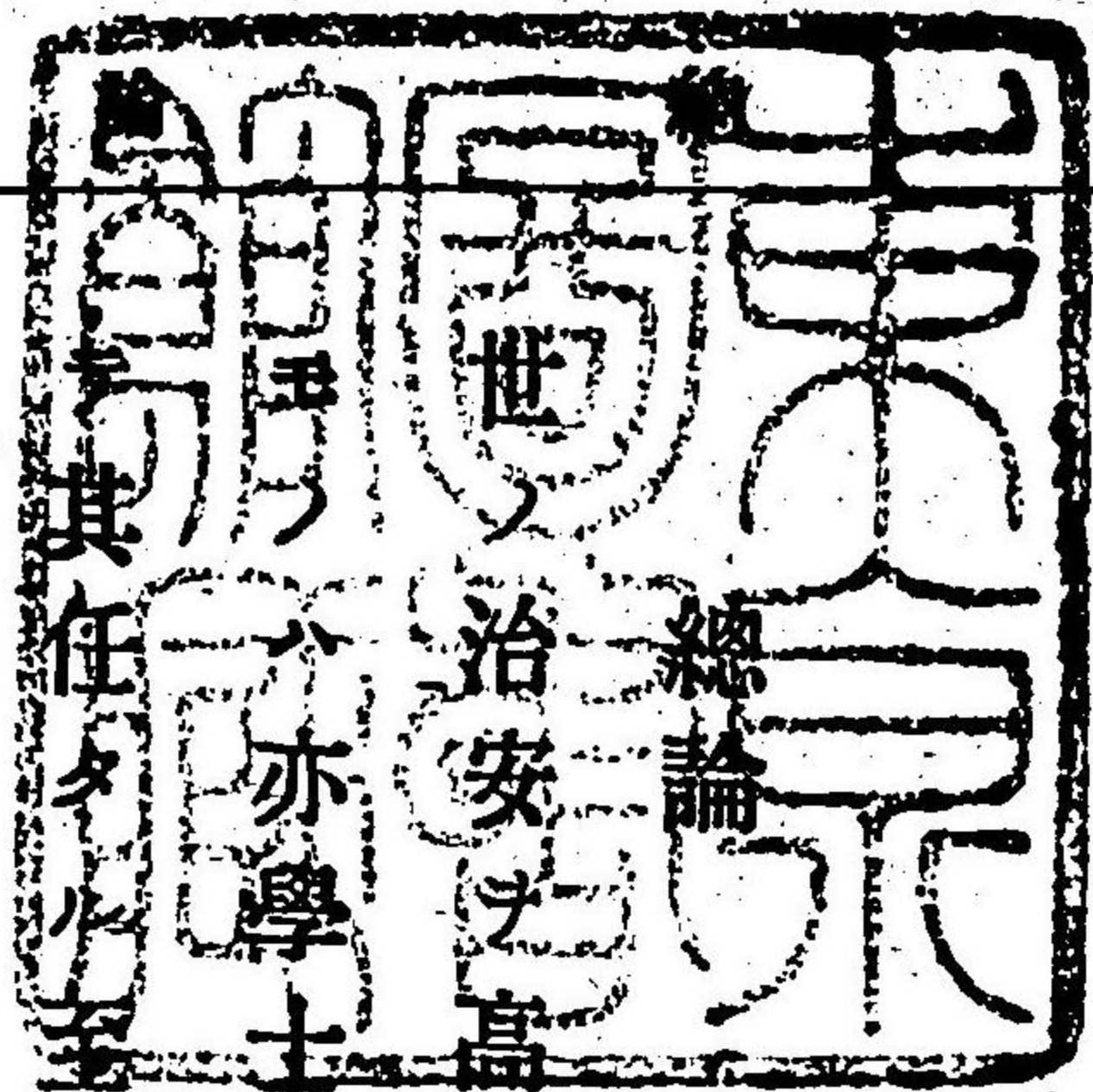
眞理之柱礎

目次

目次

總論	一
世界ノ創造ヲ論ス	九
人ノ生出ヲ論ス	五二
万邦一祖ナルヲ論ス	六一
人ノ組織ヲ論ス	七八
各人ノ性質ヲ論ス	一〇四
人ノ本分ヲ論ス	一一一
目次畢	

眞理之柱礎



神學士 三井道郎君

天囚逸士 吉村鐘一君 編纂

校閱

(一)

ニ就テ之ヲ見ルニ其治安ヲ高メタルト其紊亂ヲ資ケ
 タルト果シテ孰レカ多キヤ未タ俄ニ斷言シ易カラサ
 ルナリ今ニ至ルマテ智識ノ抗戰幾千年辨論ノ對陣幾

萬里何ソ眞理ノ之ヲ統一スルノ遲キヤ眞理ハ一ナリ
 今古動クナシ然ルニ世間ノ囂々タル何ソ此ノ如キヤ
 誠ニ智所羅門ヲ起シ辨保羅ヲ喚フニ非レハ到底之ヲ
 爬羅收拾シ以テ一ニ歸セシムテ能ハサルカ
 百人ニハ百人ソ眉目アリ千人ニハ千人ノ意見アリ情
 感ニ長シ意志ニ短ナル者アリ心情ニ優ニシテ裁斷ニ
 鈍ナル者アリ觀察銳ニシテ省視敏ナラサル者アリ記
 憶非常ニ發達スルモ理會意外ニ遲緩ナル者アリ學問
 心術ノ如キモ亦然リ先入之カ主トナルニ非レハ學テ
 其性ノ近キ處ヲ能クスルノミ故ニ教理ヲ好ム者アリ

文學ヲ嗜ム者アリ物理ニ趨ル者分析ニ耽ル者巧藝自
 畫ル者詩歌自安スル者各其方隅ニ分處シ以テ其說ヲ
 主張ス宜ナリ其紛々タルヤ蓋シ自然淘汰ノ說モ萬象
 進化ノ論モ皆各所謂緣林三分ノ理ナキニ非ス口辨ノ
 徒筆舌喧呶天下輕躁ノ輩ヲ陷レントスル者道途ニ闕
 塞ス豈亦危殆ナラスヤ
 夫レ百般ノ學術舉ツテ之ヲ一身ニ備ヘンテ得テ之ヲ
 各人ニ望ムベカラス人ハ各其能クスル所ヲ專修シ社
 會ノ幸福ト平和トヲ増進セハ即テ殆ント足ルモノ
 如シ只夫レ德義ハ則テ斷シテ斯ル通則ヲ容ルヘキモ

ノニアラス故ニ天下物理ニ通セサル者アルヘキナリ
 一人ノ正義ヲ知ラサル者アルヘカラス化學ヲ解セサ
 ル者アル可ナリ一人ノ誠實ヲ行フ心ナカルヘカラス
 是普通道德ノ論點ヨリ爾カ云フノミ若シ嚴正ナル宗
 教上ヨリ之ヲ論スル時ハ人ハ神ノ造物トシテ永遠ナ
 ル者ナリ故ニ何人ト雖神ノ要求ニ應シテ徳義ヲ履修
 セサルヘカラス若シ之ヲ蔑如センカ人ハ其報罰トシ
 テ自ラ永禍ニ服セサルヲ得サルナリ宗教的道德ノ要
 求此ノ如ク其レ嚴正ナリ吾人之ヲ拒絕シテ社會ノ外
 ニ放置センカ將々唯々服諾惟命維從ハンカ若シ之ヲ

拒絕シテ社會ノ外ニ放置セントストモ人心ノ要求ス
 ル所必ス宗教上論スルカ如キ現象ヲ見認メサルヲ得
 ス況ンヤ有神ノ証憑歴然トシテ數フヘキチヤ吾人決
 シテ之ヲ拒絕スルヲ得サルナリ然ラハ則テ唯々服
 諾惟命惟從ハントスルカ我ニ智力ノアルアリ豈斯ル
 姑息ヲ容サンヤ良シ之ヲ許ストスルモ人心ノ放緩シ
 易キ良智ニ根シ良能ニ滯スルノ眞理之カ重要勢力ヲ
 ナスアラスンハ焉ソ人心ヲ繫維シテ以テ宗教的幸
 福ヲ得セシムルニ足ランヤ
 我等靈魂ノ改進史ヲ讀ミ彼ノ秀才堅徳ナル摩西カ狂

頑ナル以色列民ノ嚮導者トナリ以テ一ノ道德國ヲ組
 制シタリシヲ記ス曩ニ我國泰西ノ文明ヲ承ルヤ美術
 巧藝ノ嚮導者アリ以テ國家ノ隆盛ヲ助ケタルヲ知ル
 物理諸學ノ嚮導者アリ以テ人智ノ進歩ヲ益シタルヲ
 知ル政治法律ノ嚮導者アリ以テ國政ヲ改進シ國本ヲ
 堅固ニシタルヲ知ル而シテ未タ道德ノ眞嚮導者アル
 ヲ見サルナリ嗚呼我國ノ學士ヲ以テ自任シ識者ヲ以
 テ自負シ幸福ノ進歩者愚蒙ノ誘導者ヲ以テ自ラ許シ
 社會ノ事業ニ奔走馳驅スル者ニシテ其能ク自ラ欺キ
 人ヲ欺カサル者幾人カアルヤ財利營私ノ目的ニ出サ

ル者幾人カアルヤ其名ハ美ニシテ實ノ非ナラサル者
 幾人カアルヤ目的正フシテ方法邪ナラサル者幾人カ
 アルヤ其國家永遠ノ利益ヲ圖リ人生百年ノ幸福ヲ興
 フル者幾人カアルヤ余ハ文章ノ美ヲ見タリ言論ノ秀
 ヲ聞キタリ未タ心術言行ノ美且秀ナル者ヲ見且聞カ
 サルナリ
 試ニ此輩ニ就テ宗教ノ如何ナル者タルヲ問ヘハ皆之
 ニ答ヘテ曰ク無知者ノ之ヲ信スルナリ曰ク人智ノ進
 歩ト共ニ其勢力ヲ失ハンノミト而シテ若シ其宗教カ
 教フル所ノ理ヲ尋ヌレハ則テ徒ニ皮想ノ見ヲ下スカ

若クハ全ク其教旨ヲ知ラサル者ナリ世ニ耶蘇教ノ排
 擊者多シト雖偶々以テ其勢力ヲ助成スルニ過キサル
 モ亦宜ナリト謂フ可シ抑學問ナル者ハ其如何ナル種
 類ニ属スルヲ問ハス一ノ精神アリテ之ヲ貫クニアラ
 サレハ則其說如何ニ巧妙ナリト雖得テ活動スヘカラ
 ス余ハ今ノ學士識者カ果シテ何ヲ以テ精神トナスカ
 ナ怪ム自ラ欺キ人ヲ欺ク者多ク射利營私ノ目的ニ出
 ル者多ク其名ハ美ニシテ實ノ非ナル者多ク目的正
 シテ方法邪ナル者多ク國家永遠ノ利益ヲ圖リ人生百
 年ノ幸福ヲ與フル者少キハ何ソヤ嗚呼道德ノ責任ハ

誰カ之ヲ辭スルヲ得ンヤ宗教ノ要求ハ誰カ之ヲ拒
 ムヲ得ンヤ而シテ眞理ハ決シテ人ノ自由ヲ強制シ
 強テ其信ヲ人ノ腹中ニ置カントスルニアラス故ニ人
 亦敢テ其意ヲ托ケ自虛信ニ陷ルヲ要セサルナリ救世
 主曰ク天國邇矣又曰ク求則見與叩則見啓蓋シ眞理ハ
 終始吾人ノ間ニアルモノナリ其幸福ト快樂トハ人ノ
 之ヲ取ルニ委ヌルモノナリ諸君其レ眞理ヲ求メサル
 カ

世界ノ創造ヲ論ス

「在ルヘキモノナルカ故ニ在リ」トハ人間平生ノ語ニシ

テ其學問靈神ノ發達ヲ害スルヤ蓋シ其幾何ナルヲ知
 ラス金石ヲ擧テ其理ヲ問フ曰ク在ルヘクシテ在ルナ
 リト然ラハ則化學何ノ施ス所アラシヤ禽獸ヲ擧ケテ
 其奔走攫拏スル所以ヲ問フ曰ク在ルヘクシテ在ルナ
 リト博物ノ學何ノ益スル所アラシヤ宇宙ノ動力ト法
 トヲ擧テ之ヲ問フ曰ク在ルヘクシテ在ルナリト物理
 ノ學ソレ將タ何ノ用ヲカ施サン山ノ聳然トシテ高キ
 水ノ淙然トシテ流ル、草木ノ時ニ及ンテ發生スル稻
 梁ノ時ニ臨ンテ登ル菓實ノ纍々タル花蕾ノ娟々タル
 皆其法其理アラサルナシ之ヲ在ルヘクシテ在ルナリ

トノ一語ノ中ニ放委シテ省ミサルカ如キフアル可ケ
 シヤ古者佛王ナポレオン第一世不能ノ二字ヲ字書ヨ
 リ除カント欲セリ予ハ則在ルヘクシテ在ルナリトノ
 一語ヲ社會ノ外ニ放逐セント欲スルモノナリ而シテ
 此語獨リ無智者文盲漢ノ間ニ行ハル、ノミナラス操
 觚ヲ以テ自任シ學士ヲ以テ自負スルモノ、中ニモ往
 々聞見スル所ナリ然レモ幸ニシテ此輩ノ多ク此說ヲ
 用ルナク化學ヲ講シテハ親和抱合ノ至理ニ服シ物理
 ナ究メテハ物體ノ法則ヲ喜ヒ博物生理ヲ研イテハ其
 生々繁殖ノ妙ニ感スルトモ若シ一步ヲ進メテ人ハ如

何ナルモノソト問フニ及ンテハ僅カニ生理上ノ答ヲ爲スニ非レハ哲家膚泛ノ説ヲ舉ルニ過キス若シ之ニ重ヌルニ生死ノ理無形ノ福樂ヲ以テセハ徒啞然トシテ答フル所ナキノミ曰ク是在ルヘクシテ在ルナリト而シテ世界ノ原因ノ如キハ徒ニ揣摩漆桶ノ見解ヲ下シテ能ク之ヲ解キ得タリトナシ其餘ハ則一ニ在ルヘクシテ在ルナリト一語ヲ以テ其心智ノ要求ヲ拒絶スルノミ誰レカ知ラン今日嚴正ナル學問社會ニアリテ尙斯ル姑息ノ行ハレントハ彼等ハ一草一花ト雖之ヲ其研磨ノ問題トセサルハナク討究ノ資ニ供セサル

ハナシ然而草木ノ生スル所金石ノ存スル所森羅萬象ノ大原因ニ至テハ則殆ント之ヲ不知不問ノ外ニ措ク者ハ何ソヤ其心中亦奇ナリト謂フヘシ

世ニハ天地ノ原因ヲ論スルヲ無益ナリトシ之ヲ考察ノ外ニ抛却スルノ徒少ナカラスト雖漫ニ之カ講明ヲナシテ妄誕自矜ルノ人モ亦甚多シトナス眇々ノ軀ヲ以テ森羅萬象ノ間ニ立チ既成幾千年ノ後天地ノ大原因ヲ論シ其理ヲ得ントスルハ如何ニモ至難ナル事業ニハ相違ナシ我等ソレ智能ノ要求スル所ヲ拒絶シ一切モイセイ所記ノ創世説ニ信從センカ然リモイセ

イノ記ハ神ノ特示ニ出ル者ニシテ其誤謬ヲ傳ヘサル
 ハ万疑フヘカラスト雖而モ學者ノ觀察實驗モ亦其精
 ナ極メ其眞ヲ得ルニ至リテハ其人世ニ裨益スルヲ決
 シテ僅少ナリトスヘカラスト故ニ予ハ苟モ妄想亂斷以
 テ眞理ヲ殘害セサル限リハ喜ンテ學者ニ勸ルニ智力
 ノ發明ヲ以テスルモノナリ

世界創造ノ説ハ萬國異同アリテ各國皆渾沌史トモ名
 クヘキ史乗ヲ有スルト雖多クハ怪誕信スヘキモノ少
 ク實ニ一喙ヲ博スルニ足ル者ノミニシテ太古ノ實記
 トシテ取ルヘキモノナシ我國ノ如キモ亦此渾沌史ヲ

有シ其中幾分ノ信憑スヘキモノナキニアラサルモ大
 体ニ付テ之ヲ論スルニ是亦後世ノ僞作タルニ過キス
 ト斷言セサルヘカラスト固ヨリ上史ニハ何ノ國トテモ
 文字テフモノヲ有セサレハ言々相傳ヘタルニ過キサ
 ル者ナリ文字ニヨリテ記載セルヲスラ其實ヲ誤ル者
 多キモノナレハ言言相傳ヘタルモノ深ク信スヘカラ
 サルハ至理ノ論ニシテ予輩トテモ亦之ヲ否拒セサル
 ナリ然リト雖若シ其事實ヲ按シ其道理ヲ推シ一毫モ
 予輩ニ與フルニ迷謬ヲ以テセサルモノナラハ予輩斷
 乎トシテ之ヲ信シ敢テ疑ハサルヲ期スルナリ

埃及フイニシヤシリヤギリシヤ支那印度皆何モ古國ト稱スルモノニテ其太古ノ記事モ皆國々ニ於テ各誇稱スル所ノモノアリト雖予ハ之ヲ已カ觀察ト學問ノ眞理ニ照シ斷シテ之ヲ信用スルコト能ハサルナリ之ニ反シテ猶太ノ古記ニ至テハ獨リ彼國ニアリテ之ヲ神授ノ經典トシテ治亂流離ノ間ニ於テ尙鄭重ニ之ヲ保持スルノ故ヲ以テスルノミナラス其所記ノ質實詐ヲサルト後世學問ノ進歩ニ牴牾セサルト其事實年代ノ頗ル信表スヘキトハ吾輩ヲシテ數多ノ疑惑ヲ抛テ深ク信服ヲ表セシムルニ足ルコトヲ疑ハサルナリ而シテ

吾輩ヲシテ之ヲ信スルト同時ニ上帝ノ存在ト人生ノ本分トヲ確認セシムルナリ世ニ此書ヲ視ルコト猶各國ノ渾沌ト同視スルモノアリ隨テ之ヲ論難排撃スルモノ少カラス而シテ其最モ排撃ノ衝ニ當ルモノハ創造説是ナリ請フ次序ヲ追フテ之ヲ論究セン抑創造ノ説タル甚深遠ナルモノニシテ現ニ初代ノ基督信徒ニシテ尙不經無根ノ言ヲ爲スモノアリ況ンヤ教外ノ學士獨リ一個想見ノ力ニ藉ルモノヲヤ今其一斑ヲ列舉スレハ希臘ノゲラクリトゼノフアンアリス
ト一ナルノ如キハ世界ヲ永遠ナリトシ印度哲學家ノ

或者及チオプラトニツク等ノ如キハ直ニ世界ヲ以テ神トナシ世界万物ヲ以テ神ノ現象ノ如ク論下セリデモクリトエピクル黨ノ如キハ世界ハ永遠ヨリ存在シタル微分子ナル者ヨリ成レリトスクセノフオンブラトン及羅馬ノセチハノ如キハ神ハ已ト共ニ永遠ヨリ在リシ所ノ物質ヨリ世界ヲ造レリト爲ス此ノ如ク近古哲理家ノ其説ヲ爲ス者參互交錯殆ント理會スルニ困マラサルヲ得ス蓋是等ノ説一ハ天地ノ創生ニ一大原因アルヲ知ラス一ハ所謂神ナル者ヲ知テ其性体ヲ解セサルヨリ生スルノ誤リトス創世記ニ曰ク神天

地ヲ造ルト此簡單ナル一説ハ社會ノ紛々タル知見ヲ一掃スルモノナリ而シテ是レ其本體ヨリ之ヲ造ルノ謂ニアラス又或ル永久ヨリ存スル所ノ物體ニ藉リテ之ヲ造ルノ謂ニモアラス即自然ニ出ルヲ謂フニ非ルナリ工人ノ家宅ヲ築造スルニ於テ必ス木材ヲ需ツカ如キモノニ非ルナリ神其一部ヲ分テ世界ト爲セルニ非ルナリ蓋シ神ノ自由ハ世界ニ屬スル者カ一モ存セサルニ先チ一言無テ呼テ有ト爲セルノ謂ナリ神万物ヲ造リテ神ノ靈万物ニ奪レス常ニ已ト他トヲ區別ス假令光アルヘントノ言ハ此ニ光ヲ生シ神之ヲ見テ善

ト爲シタルカ如シ
 夫レ万物ハ皆各其性命ヲ自有スル者ナリトハエビク
 ール學派ノ歸趣ニシテ世界ノ構成ヲ以テ之ヲ偶然ノ
 成跡ニ歸スルト同然ナリ彼ノ言ニ曰微分子ハ偶然ノ
 作爲ニヨリテ偶然ニ數理世界ヲ完成シタリト言ヲ換
 テ之ヲ言ハ、木石金土其他種々物品一ノ意味モアル
 ナク偶然相會集シ奇遇ニモ東京ノ都府ヲ造リ東京ノ
 繁華ヲナシタリト爲ス者ナリ豈奇怪ナリト言ハサル
 ヘケンヤ今若シ之ヲ一都府ニ就テ論スレハ事實ニ合
 ハサルノ妄説トシ世界ノ構成ニ就テ論スレハ眞ヲ得

タルモノトナスカ彼ニアリテハ笑フヘキモノニシテ
 此ニアリテハ賞スヘシトナスカ抑小ナル者ニハ背理
 ニシテ大ナル者ニハ合理ナリトナスカ是余輩ノ深ク
 解セサル所ナリ而シテ神ハ己ノ實體ヨリ世界ヲ生シ
 世界ハ即チ神ノ顯現ナリトナスモノ是全ク神ヲ神視
 セス之ヲ世界ト同視スルモノニシテ無神論者ノ見解
 ト異ル、其間實ニ毫髮ヲモ容ル、ニ足ラサルナリ之
 ニ反シテ聖書ノ説ハ之ヲ道理上ヨリ斷スルモ其言甚
 簡易ニシテ其理ハ甚タ正確ナリソレ物質ハ制セラル
 ヘシ神ハ制セラルヘカラス世界ハ限リアリ神ハ限ア

ルヲナシ世界ハ變遷スヘキ者ナリ神ハ變易スヘカラサル者ナリ制セラルヘキ者ハ制セラレサル者ニ屬セサルヘカラス限アル者ハ限りナキ者ヨリ成ラサルヘカラス變遷スヘキ者ハ變遷セサル者ニ其照管ヲ受ケサルヘカラス今世界ハ制セラルヘキ者ナリ而シテ限ナク變遷セサル者ニ非ルナリ然ルニ若シ神ト世界トヲ混セハ是制者ト被制者ヲ混シ有限ト無限ヲ混シ變者ト不變者ヲ混スル者ナリ蓋シ神ノ世界ヲ造ルヤ其自由ヲ顯シタルニ過キス而テ神其体ニハ則テ毫モ變易増損スルヲナシ是恰モ工人若クハ技藝家

カ自己心上ノ構成ヲ實地ニ顯ハシ而シテ家宅ノ美麗建物ノ壯嚴ヲ致シナカラ其心術才能ニハ更ニ失フ所ナク依然トシテ益其活潑々タルヲ見ルカ如シ是ニ由テ之ヲ觀レハ凡ソ世界万物ハ全能者ノ創造スル所ニシテ一物トシテ生命ノ原因ヲ彼ニ受サル者ナシ今一花ヲ舉ケテ人ニ問ハン曰何ノ處ニ之ヲ得タルヤト之ニ答テ曰ハン薔薇園ヨリ之ヲ得タリト而薔薇ハ何ノ處ニ生スルヤト問ハ、答テ曰ハン地上ナリト地ハ何ナリヤト問ハ、又必土石ノ塊集ナリト答フヘシ如此窮訊シテ遂ニ天地ノ大原因ニ遡ラハ誰カ之ヲ神ニ歸

スルヲ免レンヤ然ラスンハ徒ニ架空ノ言ヲ爲シ無鵠ノ物ヲ立テ、止マンノミ

アツアツナシイ曰ク若シ之ヲ理ルノ智識アルナク万物偶然トシテ生シタリトナサハ則万事偶然ニ存在スヘキノミ世界ノ中ニ秩序アルナク齊整アルナク定理アルナク唯紛然トシテ存在スヘキナリ然而吾等世界ニ於テ一切奇トスヘカラサルノ秩序ヲ見サルナキハ何ソ是レ思測シ難キ能力ニヨリテ宰治セラル、カ故ナリ唯此一事ノミヲ以テモ世界ハ至上睿知者即チ神

ニテ造ラレタルヲ識認スルニ充分ナリト又曰物体ハ永遠ノ物ナレハ則必變スヘカラス變スヘカラスンハ安ソ是ヨリ世界ヲ造ルヲ得ンヤ蓋シ永遠ハ時ニ反對シ永遠ノ物ハ時ニ隨ハス時ニ隨フ者ハ永遠ノ物ニアラスト

基督教ノ流派ヲ汲ム輩ニシテ尙且錯誤ヲ致シタル者已ニ二世代ノ頃ヘルモゲン等アリアナクサゴールブラトン等ノ如ク亦物体ハ永遠ヨリ來レルモノナリト説キシーモンメナンドルワシリドカルボクラト等ハ世界ハ永遠ノ物体ニヨリテ神使ノ造リシ者トナシ使

徒ノ時人ナルケリントノ如キハ世界ハ最上ノ神ノ與
 リ知ル所ニ非スシテ或劣下ノ靈能之ヲ造レリトナス
 其他マニヘイ黨ノ如キハ惡魔ヲ以テ世界ノ化匠トナ
 シ至賢ナルオリゲンノ如キモ亦誤テ世界ハ永久ヨリ
 造成セラレ其造成ハ神ノ全能ノ顯ハレサルヲ能ハサ
 ルニヨリ神ノ全能ノ或ル緊要ナル作働ナリト爲セリ
 中世ニ至ルニ及ンテ其惡影邪響全ク消絶スルニ至ラ
 スパウリキ―黨等ハ彼ノマニヘイ黨ノ說ヲ襲テ惡魔
 ノ造成ニ係ルト主張シ而シテ又諸學派ハ皆種々ノ異
 說ヲ以テ其論壘ヲ持防セリ

大ワシリイ曰神ノ世界ヲ造ルヤ肉体ノ力ヲ以
 テセルニ非ス或無形ノ方法ニ藉レリ而シテ已
 ノ内ヨリ造物ヲ生スルニ非ス其靈妙ノ作用無
 ヨリ有テ呼出セシナリ神既ニ世界ヲ無ヨリ呼
 出ス時ハ世界ハ永遠ヨリ造ラレタルニ非ス定
 期ニアリテ之ヲ造レルナリ言ヲ換ヘテ之ヲ言
 ヘハ神ハ定期ト共ニ世界ヲ造リタルヤ章然タ
 リ夫レ時ト期トハ世界ナクシテ存スル者ニ非
 ス時ハ只万物存在ノ形ニシテ(無形)遷移ノ連續
 ノミ是ヲ以テ時ハ万物ニ先テ顯ル、ヲ能ハス

只万物ト共ニ生スルヲ得タルナリ世界ノ始ハ
 時ノ始ニシテ時ノ始ハ是世界ノ始ナリト
 アテナゴル亦曰ク若シ世界ハ神ニヨリ造ラレ
 タル者ナレハ決シテ永遠ヨリ造ラレシニ非ル
 ナリ蓋シ造ルノ力ハ造ラル、ノ物ニ先テ存セ
 サルヘカラス

耶路撒冷ノキリール曰無ヨリ世界ヲ造リタル
 モノハ永遠ヨリ造ラレタルニ非ルナリ世界存
 在ノ先ハ獨リ無ノミアリシナリト
 イボンノアウグステイン曰ク世界ノ万物ハ變

革セララルヘシ其變革セララルヘキモノハ時ニ隨
 テアルモノナリ故ニ世界ハ永遠ヨリ造ラレシ
 ニ非ス蓋シ變化ト時トハ吾人之ヲ想像中ニ推
 擴シ殆ント際涯ナカルヘシト雖始ナキノ物ハ
 之ヲ思惟スルヲ能ハスト云云

アウグステイン亦曰ク世界ハ定時ニ至テ造ラ
 レタリト雖之ヲ造ラントノ意思ハ神永遠ヨリ
 之ヲ有セリ決シテ世界ノ創造ハ神ノ中ニ或變
 化ヲ與ヘタルニ非ス

神學者グリゴリイ曰ク神ハ一切圓滿ナラサル

ナシ故ニ活動アラサルヲナシ未タ世界ヲ造ラサルノ前世々ノ虚無ノ中ニ存在シテ其意思其智識ハ神已レノ美善ノ光ヲ見聖三者ノ完全ナル寶徳ヲ觀察シ其睿智ハ無限ノ想像ノ中ニ其自ラ設ケシ處ノ諸象ヲ熟視セリ世界ハ定時ニ及テ實體ノ存在ヲ受ケント雖神ノ前ニハ永遠ヨリ存在セリ蓋シ我等ノ爲ニハ時之カ媒トナリ或事ヲ前ニシ或事ヲ後ニシ或事ヲ現在ニスト雖神ノ爲ニハ万事相合セラレテ一現在トナリ皆其目前ニアラサルハナキナリ

テルトリアンハヘルモゲン等ノ異説ヲ駁シテ曰ク永遠ノ存在ハ獨リ神アルノミ若シ神ノ外更ニ永遠ノ物アリ神ニヨリテ造ラレサル者アリトセハ神ハ神ニ非ス即チ世界ハ神ト同ク無限不易ノ者ナラントス而シテ又神ニニアリト曰ヘハ是神ナシト云フニ異ナラスト

リオンノイリ子イ神使世界ヲ造ルノ説ヲ排シテ曰ク若シ神使等神旨ヲ奉スルニ非スシテ世界ヲ造ルヲ得ルトセハ神使ハ神ヨリモ多クノ能力アル者ナリ若シ神旨ニ違テ之ヲ造リタ

リトセハ則神神使ノ力ヲ藉ルヲ要スルモノト
ナル其不理モ亦甚シ夫レ神ハ唯一全能ニシテ
其需求スル所ノ者一モアルコトナシト

近來歐州文明ノ進歩ト共ニ此眞理ニ反對スル者モ亦
多シト雖之ヲ要スルニ唯物學者ノ説最モ勢力ヲ有ス
ルカ如シ其説ニ曰ク基督教ノ創造説ハ天文學地質學
ノ發明大ニ進ムニ當リテハ到底其立地ヲ失フニ至ル
ヘシト次テ曰基督教ノ創造説ヲ駁スルニハ天文學コ
ソ最モ適當ノ材料ニシテ彼レノ堅甲利兵モ爲ニ狼狽
シテ其據ヲ失フノ外ナシト之カ其趣旨ハ曰ク創世記

ニハ地球ヲ以テ宇宙ノ中心樞要ナリトシ地上ハ万物
ノ生長シ人類ノ生息スル所ニシテ神ノ子救世主ノ降
リテ人ト爲リタルモノナレハ地球及ヒ之ニ住スル所
ノ人ノ運命ト宇宙ノ運命トハ互ニ相關スルモノ、如
ク唱フレモ彼ノ有名ナルコペルニクノ學理ニヨレハ
地ハ宇宙間ニアリテ微々タル一塊ニ過キス廣大無邊
ナル空間ヲ占ムル太陽系ニ比スレハ殆ント無キカ如
シ銀河系ヲ見ルニ二千万餘ノ太陽アリ而シテ宇宙間
ノ廣キヲ以テ之ヲ見レハ此銀河系ノ如キモ大海中ノ
小群島ノミ況ンヤ吾人ノ研究ヲ經サル者觀察ニ逢ハ

サル所ノ星宿亦其幾何ナルヲ知ラサルヘカラサルヲ
 ヤ安ソ地球ヲ以テ中心トナシ樞要トスルヲ得ンヤ是宇
 宙ノ片埃ヲ以テ直ナニ中心樞要ト主張ストニ異ラスト
 是反對論者ノ常ニ攻撃ノ言トナス所ノ者ナリ天文學ノ
 示ス所此ノ如シ而シテ創世記ニ示ス所果シテ之ト反
 背スルヤ決シテ然ラス蓋シ地球ハ論者ノ言ノ如ク之
 ナ宇宙ノ廣大ニ比スレハ唯是彈丸黒子ノミ固ヨリ之
 ナ宇宙ノ中心樞要トスルハ甚タ妥當ヲ失スルモノ、
 如ク然リ然リト雖論者試ニ思ヘ物ノ大小ハ尊卑ノ決
 ナナスヲ得ルヤ數量ト性質トハ全ク相異ナルモノニ

シテ數量ノ多寡大小ヲ以テ性質ノ尊卑優劣ヲ斷スル
 ハ決シテ正當ノ判決ニアラサルナリ我等ハ知ル人間
 ハ宇宙ニアリテ微分子ノ如キモノナレモ此微分子ハ
 亦神ノ機關ヲ辱フセシモノタルヲ知ルナリソレ絶大
 ナル無機物ノ凝塊ハ微小ナル有機物ヨリ却テ下位ヲ
 占ムルヲ皆人ノ知ル所ニシテ燦然タル薔薇花ハ之ヲ
 頑平タル岩石ニ比スヘカラス綿蠻タル鶯簧ハ大湖ノ
 狂濤ヨリハ其調更ニ美ナリ誰カ之ヲ否マンヤ三尺ノ
 童子モ十丈ノ巨鯨ヨリ勝レタルヲハ論者モ亦首肯ス
 ルナルヘシ人ノ靈魂ハ所有物体ヨリ更ニ大ニ更ニ貴

キモノニシテ五尺ノ肉身ハ全天地ヲ以テモ質フヘカ
 ラサルノ機關ヲ辱フセリヨシ地球ハ星辰ト比スレハ
 一粒ノ沙一撮ノ礫ノ如シト雖神ノ降臨ヲ辱スルヲ
 得ルニ非スヤ我等ノ棲住スル地球ノ中心樞要ヲ占ム
 ル所以ノ者其體質ニヨルニ非ス神靈的ノ故ヲ以テナ
 リ天体ハ多シ廣キ者大ナルモノハ百千億指スルニ違
 アラスト雖學問ノ明ス所ニヨルニ概テ有機物ヲ受ル
 者ニ堪フル者ナシ試ニ地球ト天体トヲ比シテ之ヲ觀
 ヲ太陽ハ必ス人間ヲシテ棲住セシムヘカラス天文學
 者ノ言ニ據ルニ太陽ハ引力太々彊クゴリヤトノ如キ

強力者モ若シ是ニ徙サハ悲ムヘキ爲体ニ至ルヘシト
 云ヘリ又太陽ヨリ遠ク隔離シタル惑星ノ如キモ亦人
 ノ家屋ヲ造成スル能ハス天王星或ハ「ウミス」ニ在リ
 テハ之ニ達スル所ノ太陽ノ光線甚薄弱ニシテ獨り寒
 氣ノ峻烈ナルノミナラス光輝ニ乏クシテ物ヲ見ル
 得テ望ムヘカラス安ソ能ク人間ノ生活ヲ托スルヲ
 得ンヤ人或ハ言ン造物主ノ至智ナル若シ人間ヲシテ
 天王星内ニ栖マシメントセハ隨意ニ其体ノ組織ヲ異
 ニシ眼ハ鵝鼻ノ如クシテ暗夜ト雖物ヲ觀ルヘカラシ
 メ体格ハ牛熊ノ如クシテ寒氣ヲ感セサラシムヘシ人

ナシテ之ニ住マシメル何ノ不可カ之アラシヤト然リ然リト雖太陽ハ他ノ星宿ヨリ小ナルモ大ナラス随テ朝夕ノ差晝夜ノ別ヲ失フヘシ而シテ斯ノ一様ノ黯黹寂闇ノ處ニアリテハ自然審美ノ觀念ヲ失シ万象ノ美ヲ觀テ之ヲ讚詠ニ發シ優游怡樂ノ情ヲ神ニ呈スルヲ得ンヤ然ラハ則決シテ人タルノ資性ヲ全フスル能ハス海王星ヲ以テ其住處トナサンカ其星ノ合緻甚密ク幾ント水ヨリモ輕シト云ヘリ而シテ其引力ノ甚少キ終ニ人間ヲシテ其堵ニ安セシムル能ハス水星ノ如キハ其性質較我地球ニ似タルモノアリト雖望遠鏡

ニヨリテ之ヲ見ルニ大氣雲ヲ生セサルハ其水ナキヲ證スルモノナリ水ナクンハ如何ソ有機物ノ生活スルヲ得ンヤ此ノ如ク日ト云ヒ月ト云ヒ星宿ト云ヒ到底人間ノ住處トナルヘキモノニアラス其能ク人間ニ適スルモノハ獨リ我地球アルノミ是ヲ以テ我等地球ヲ稱シテ中心樞要トナス決シテ誣言ニ非ルナリ地質學ノ實驗ヲ以テ駁撃ヲ試ルモノアリ曰地質學ニヨレハ我地球ハ溶解的ノ核ノ直徑五千哩ナルモノト凝固シタル殼(即地皮)厚二十三哩ナルモノヨリ成立ツ而シテ溶解的ノ核ニ付テハ我等直接ニ研究シ直接ニ

アラサルナリ然ルニ論者口ヲ開ケハ則曰クモイセイ
ハ盲蠻時代ニ生長シ彼ノ自然淘汰ノ理アルヲ知ラス
神ヲ以テ此世ノ工人ト見做シ先ツ個々ノ物ヲ造リ之
ヲ合シテ一物体トナシタルカ如ク記スルハ誤ナリ天
然ノ動力ト法則トニヨリテ地ハ漸次進化シ益完全ノ
域ニ入り數百万年ノ久キヲ經テ始テ今日ノ景狀ニ達
セルナリト如何ニモ論者ノ言ノ如ク創世記ハ今日地
質學ノ發明ノ如キ瑣末ノ事項ハ少モ概見スル所ナケ
レハ一言モ此ニ渉ルヲナシト雖之ヲ以テ聖書ハ地質
學ニ反スル者ナリト論斷セルハ是甚不當ノ處斷ナリ

ト謂ハサルヘカラス聖書ハ眞理ヲ開導スル古來相傳
ノ秘法ナリ地質學ハ輓近ノ學問ニシテ尙皮想ニ止ル
モノナリ夫レモイセイノ創世記ヲ記スルヤ敢テ世界
ノ變遷史トシテ之ヲ記セシモノニアラス斯ル事ヲ記
述スルハ神ノ絶大ナル目的ト直接ノ關係ヲ有セサル
ナリ聖書ハ地質天文ノ教課書ニ非スシテ人心幽微ノ
根底ヨリ發スル信仰ノ紀念碑ナリ故ニ聖書ノ主眼ハ
天文地質ノ理ヲ講究スルニ非ス又博物學者ノ備考書
ニモアラスシテ其單ナル目的ハ人ノ信仰心ヲ盈シ宗
教的ノ要求ヲ飽充セシムルカ爲ナリ而シテ地質學者

カ其學問ノ材料ヲ此ニ取ラントスルモノハ是尙寶山
 入リテ家屋ヲ求ルカ如キノミ寶山ハ美ナリ百珍備
 ラサルナシ然リト雖家屋ハ則テ寧ロ之ヲ市府ニ求メ
 サルヘカラス之ヲ彼ニ求メスシテ力ヲ此ニ致シ其獲
 ラスヤ然而シテ他ノ一方ヨリ之ヲ論スレハ學者ノ對
 戰未タ収ラス其正其僞未タ決スル所ナシ之ニ反シテ
 數千年ノ間儼然撼カス一以テ之ヲ貫スル聖書ノ真理
 ハ誰カ其旗色ノ嚴正ナルニ驚カサランヤ誰レカ其風
 ヲ望テ歸順ノ聲ヲ放タサランヤ宜ナルカナ近時歐州

ノ唯物學者ノ靈智靈妙ナル能力ナクンハ物質ノ親和
 レ斯ル整然タル森羅万象ノ存スヘカラサルヲ覺リ而
 シテ世界万物ニ顯ハル、所ノ規矩秩序ハ至上者ノ物
 質ニ付シタル天然ノ法則ノ致ス所ナルヲ知ルト曰フ
 ニ至レルヤソレ彼新正ニシテ隨テ信承スヘキノ學理
 ニ至テハ其大要常ニ聖書ト默契スルモノナリ地質學
 ノ說ニテハ世界ノ初ハ漂漾セル渾沌ノ一物ナリトス
 而シテ聖書ノ示ス所亦此ノ如シ地質學ハ地ノ形送ニ
 付テハ万有ノ力自働テ功アリトナス是亦聖書ノ微意
 ナリ創世記ニ記ス神曰地宜ク生スヘシ水ハ聚ルヘシ

ト地ハ神ノ言ニヨリテ生シ水ハ神與ノ法則ニヨリテ一所ニ匯聚シタリキ地質學ノ研究ニヨレハ世界ノ形造漸々順ヲ追テ成リ一般ノ物ヨリ各異ノ物不完全ノ物ヨリ完全ノ物不自由ノ物ヨリ自由ノ物ニ至リ而シテ人ハ世界形造ノ絶頂ナリ冠冕ナリト聖書ヲ按スルニ地ハ始メ水ニテ覆ハレ而シテ山及陸生シ陸ハ草木ヲ以テ覆ハレ水ハ魚ニヨリテ盈テ空中ニハ飛鳥顯ハレ而シテ後陸地ニ動物顯ハレ遂ニ其支配者顯レタリト世界開達ノ運動ハ創世記ニ録スル所ト地質學家ノ説ク所ト其相反セサルヤ此ノ如シ佛ノテメルソン氏

モイセイ所記ノ順序ハ地質學ノ學理ト全々符合スルヲ視テ感歎シブベ—ハ當今學術進步シテ其發明ノ結果聖書ト暗合スルヲ視テ實ニ聖書ハ靈妙不可思議ナル能力ノ出現ナリト斷定シタリ偏セス黨セサル學者ノ見解誰カ此ノ二人ノ如クナラサランヤ而シテ又左ノ難問ヲ懷テ來リ問フ者アリ曰クモイセイノ記スル所ニヨレハ光ハ第一日ニ生シ太陽ハ第四日ニ及ンテ造ラレタリト是甚理ニ合ハサルノ説ナリソレ光ハ太陽ヨリ出テスシテ何處ヨリ發スルカ然リ聖書ニ記スル所多クハ高遠ニシテ草卒讀過スルモノハ往々其微

意ヲ得ルヲ能ハス獨リ此處ニ止マラサルナリソレ聖書ノ記スル所第一日ノ光ナル者ハ即所謂光溫素ナルモノニシテ第四日ニ至リ之ヲ一所ニ會集シ太陽ノ如キ烈光ノ如キモノヲ生シタリ是恰モ先ニ匯聚スヘキノ所ヲ造リ第三日ニ至リ水陸ヲ區別シタルト同シキナリ然ルニ又他方ヨリ之ヲ論スルキハ諸物ハ太陽ナシテ光ヲ發スルヲ得ルハ吾人ノ常ニ實視スル所ナリ電氣ノ如キ是ナリ今二物ヲ取テ急ニ摩擦スル時ハ閃然光ヲ生シ化學ノ理ニヨリ或二物ヲ速ニ合スル時ハ其親和ノ効忽チ光ヲ發スルニアラスヤ聖書記スル所

第一日ノ光ハ其性質如何ナル物カ我等未タ之ヲ知ラス然レモ光ハ太陽ナクシテ存スルヲ得ルハ我等ノ知ル所ナリ論者又端ヲ更テ曰ク世界ノ形造ハ數百万年若クハ數億年ヲ經テ功ヲ奏セシ者ナリ而シテ創世記ニ六日ニシテ成レリト云フ是事實ニ合ハザルノ言ナリト然リ論者ノ言ノ如ク宇宙并ニ地球ノ形造ハ自然ノ法ト動力トニヨリテ六日間ニ成レリト曰ハ、疑ヲ存スルノ理由ナキニアラスト雖全能者ノ爲ス所ハ万有ノ法ト動力トカ數十世若クハ數百世ヲ消磨シテ生スヘキモノヲ一瞬間ニモナスヲ得ヘシ而シテ万有ノ

法ト動力トカ其功用ヲ生スルニ至シハ神ヨリ十分ナル形造ヲ承シ後ニシテ万有ノ未タ形造セラレサル以前ハ法ト云ヒ動力ト云フモノ、存スル謂ナシ然ラハ則神ハ六日ノ間ニ之ヲ創造シ之ヲ形造シタリト云フモ何ソ怪ムニ足ランヤ若シ之ヲ能ハストセハ永遠絶對ノ作用ヲ有限動物ノ作用ト同視スルモノナリ造物主ノ大能ヲ覺ラサル亦甚シト云フ可シ(或宗教家ハ創世日即希伯來語(VOH)ヲ時限ト解スト雖モ是一己ノ私見タルニ過キス宗教上ノ公認ニ非ルナリ)其他世間夥多ノ論難家ハ種々ノ說ヲ提出シテ創造說ヲ排駁セント試ムルト雖學問ノ完全ナラヌ學者ノ深奥ヲ究メサルヲ

証スルニ止マリテ毫モ天啓ノ教ヲ點鱗スル能ハサルナリ方今學術頓ニ進歩シ殊ニ地質學ノ如キ其頂點ニ達シタリトノ思考ヲ持スルモノアレバ要スルニ推斷臆測ニ安スルモノニシテ万世不易ノ真理ト稱スヘキモノ實ニ少ナシ然リト雖社會ノ進歩人生ノ幸福ハ學問ノ補益ヲ受ルモノ常ニ僅少ナラヌ蓋シ學問ノ真理ハ固ヨリ宗教ノ真理ニヨリテ堅固ヲ來スモノナレハ今日觀察ニ孜孜タリ考察ニ汲々タルノ諸士早晚其真理ヲ發見シ大悟一聲主ヨト呼フニ至ラン然ルニ其此ニ至ル豈跬步企踵ノ間ニ能クス可ケンヤ恐クハ

學問其方向ヲ失シ眞理ノ光ヲ見ルニ及ハサルモノアラシカ聖パウエル曰ヘルアリ夫レ智識ハ驕ヲ致ス惟愛ハ徳ヲ建ツト若愛徳心ニ暴レテ唯致驕ノ智識ニ汲々タルハ予ノ學問社會ニ希望スル所ニアラサルナリ

人ノ生出ヲ論ス

世界万物總々林々一物トシテ備ハラサルナシ神遂ニ人ヲ造リ以テ其功ヲ終ヘタリ是ヲ以テ人ノ地ニ出ルヤ恰モ王ノ管轄ニ入り司祭ノ聖堂ニ進ムカ如シ其榮其樂要スル所ノ物一モ欠ルアルナシ聖書ノ示ス所ニ據ルニ神人ヲ造ルニ先ナ三位協談(測知スヘカヲササル作用)シテ巳ノ

像ニヨリテ之ヲ造ルヲ云ヘリ(創世記一章ノ二十六節)是ニ由テ觀ルニ人ハ他ノ造物トハ自ラ種別ナルモノニシテ他ノ動物ハ唯一言一令ノ下ニ其創造ヲ受ケタレヒ人ニ至テハ則格段ノ注意ヲ以テ直接ニ序ヲ追テ造ラレタリ(創世記一章ノ七節)此ノ如ク初人アダム其創造ヲ受ケ此ノ如ク第一婦エツモ造ラレタリ初人ハ造物主ノ像ヲ稟ケ全地ヲ支配スルノ權ヲ與ヘラレタリ(創世記一章ノ二十八節)是皆人ハ先ニ造ラレタル動物ノ同類ニアラス子孫ニアラス進化物ニアラスシテ神之族(使徒行傳十章ノ二節)ナルヲ知ルヘン人ハ造物ノ位地ニ居レヒ造物ト其位ヲ異ニシ自ラ造物

ノ王タリ主タリ首領タリ中心タルナリ吾人ヲ圍繞スル万物ハ假令美ナルモ只人ノ中保ニヨリテ己ノ造物主ト交通スルヲ得而シテ其用タル一時ニ過キス之ニ反シテ人ハ微小ナリト雖其靈魂ヲ以テ直ニ神ト交通スルヲ得ルナリ時間能ク人ヲ制スヘキモ人ハ永遠ニ進歩スルノ力アリ物質世界ニ住スルモ無限ノ天國ニ屬スルモノナリ古ヨリ教會ノ教師等初人ノ創造ヲ論スルニ未ダ曾テモイセイノ創世記ニ基カサルナシイエロニム曰ヘルアリ誰カ主ナル神ヲ信スル者ニシテアダムハ塵ヨリ造ラレエワハ其脇ヨリ造ラレタ

ルヲ信セサルモノアラシヤト

ダマスクノイナアン曰ク神ハ有形ノ物質ヨリ人ノ軀軀ヲ造リ己ノ像ヲ賦シ以テ完人トナセリ即チ地ヲ以テ肉体ヲ化成シ神其呼吸(氣)ヲ以テ人ニ靈智解語ノ靈ヲ賦セリト

大グリゴリイ曰ク神ハ造物ヨリ軀ヲ取り自ラ之ニ生命ヲ賦シ第二ノ世界トモ云フヘキモノヲ造レリ是小ナルモ實ニ大ナル者ナリ創世記ハモト一個ノ史記ナレハ盡ク文字上字義上ノ儘ニ解スヘカヲサル處アリ人ノ創造ヲ陳ル處

ニ至テハ神ハ地ヨリ塵ヲ取テ人ノ躰ヲ化生シ
 タリト聞キ神人体ヲ造ルニ自ラ手ヲ以テセリ
 ト卒爾ニ解釋スヘカラス神ハ特ニ注意ヲ加ヘ
 タリト解シテ足レリ人体ハ神ノ旨ニヨリテ地
 ヨリ成リ而シテ神ハ氣ヲ吹テ靈ヲ與ヘタリ氣
 ナ嘘キタリトハ神性ノ分子ヲ人ニ賦シタリト
 思惟スヘカラス是唯靈ノ靈活ナルヲ示スノ
 ミ蓋シ氣ヲ噴クノ詞ハ只人ノ靈魂存在ノ始ヲ
 示スモノニシテ造化ノ呼吸ハ殊ニ人ノ面ニ於
 テ顯ハレタリ人ハ呼吸(氣或生命ノ氣)ヲ以テ生

靈タルヲ致ス呼吸トハ何ソヤ蓋シ人ハ實ニ
 動植ノ生命ヲ已ノ中ニ含蓄スルノミナラス天
 上無形神使ノ性ヲ有スルヲ示スナリ故ニ氣ヲ
 嘘テ後生靈トナルハ即肉靈相合シテ一ノ活体
 トナリシヲ示スモノナリ
 人ノ存在生出ニ付テ聖書ノ訓示スル所斯ノ如ク公正
 親切ニシテ能ク人意ノ深微ニ適合スルニモ拘ハラヌ
 之ニ反對スル者以爲ラク人ハ神ノ造物ニアラスト然
 レモ其説ク所本末明ナラス首尾綜核スルモノアルナ
 ク固ヨリ人心ヲ維繫スルニ足ラス古來人ノ生出ヲ説

明セント試ミタル學者少ナカラス希臘ノエビクール
 學派ヲ執ル者ハ人ハ植物ノ如ク地ヨリ自然ニ萌出シ
 タリシモノナルヲ唱ヘタリ而シテ人ト動物トノ區別
 全ク存スルナシ近世人ノ呶々スル所ノ變遷論ナル者
 盖亦此說ノ陳套ヲ襲フニ過キサレナリ但變遷論(或ハ
 ダールウイン主義)ハエビクールの說ニ比スレハ較々
 緻密交錯シタルモノニテ其要點ニ至テハ大同小異ナ
 リ此說ニヨレハ始ハ一個若クハ若干ノ有機物アリテ
 存シ此有機物ヨリ數百万年間漸々變遷シテ植物ノ如
 キ動物ヲ生シタリト而シテダールウイン氏ハ最初ニ

存在シタリトスル一個若クハ若干ノ有機物ハ誰ニヨ
 リテ造ラレシヤ將タ何處ヨリ出シヤ毫モ之ヲ示サス
 唯云フ是レヨリ動植物生シ來リ遂ニ進化シテ人間ヲ
 生シタリト此說ヲシテ眞ナラシメハ人間ノ最遠キ元
 祖ハ苔或ハ腐敗シタル菌トセサルヘカラス而シテ其
 最近キ元祖ハ猿ナリト一方ヨリ見レハ此說強ク神ノ
 創造說ヲ駁撃スルモノニアラスト雖畢竟神ヲ世界ノ
 造物者形造主トスルノ眞理ニ合ハサルノ妄說ナリ吾
 人理學ノ蘊底ヲ推窮シ事實ノ証憑ヲ列叙スルニ非ル
 モ斯ル推論ノ到底皮想ノ見解タルヲ確ムルニ難カラ

ス觀察實驗ノ淺近ナルヲ指スニ苦マサルナリ設令觀察實驗ハ動植物ノ或物ノ正ニ變遷進化スルヲアルヲ示スト雖是ヨリ推シテ全有機界ハ一若クハ若干ノ有機物ヨリ變遷セリト斷言スルハ臆見モ亦甚シト謂フヘシ一種ノ動物ハ種々ノ動物ヲ生ム能ハサル者ニシテ未タ獅子ノ虎ヲ生ミ象ノ馬ヲ生ミ若クハ鶴ノ雀ヲ生ミタルヲ聞カス此ノ如キモノハ豈其創造ノ時ヨリシテ其全ク異類ノ物タルヲ示スニ非スマ近來社會ノ學者往々自然淘汰ノ說ニ心醉スルモノアリト雖此說ハ正シク人間ノ生出存在終極等ヲ説明スルヲ能ハ

サルモノニシテ人ハ他動物ヨリ變遷淘汰シ來レリトノ斷言ハ決シテ觀察上ニモ實驗上ニモ證シ能ハサル所ナリ之ニ反シテ人ハ實ニ神ニ造ラレ体ハ土ニ復リ其靈ハ不死ニシテ神ヨリ受ケ得タルモノナリトハ豈道理上明カニ且正シキモノニアラスヤ

万邦一祖ナルヲ論ス

天啓教ハ獨アダムトエワヲ以テ全人類惟一ノ元祖トシ其他別ニ人間ノ元祖アルヲ示サス創世記ニ示シテ曰アダムノ先ニ地ヲ耕ス人ナカリキ(二章五節)又日神ハ人ヲ造リ玉ヘリ之ヲ男女トス(廿七章ノ下)是唯一個人ヲ造

ラレシモノニシテ數人ノ造ラレタルニ非ス先ニ動植
 其類ニ從ヒ千種万様其創造ヲ受ケシカ如ク各種ノ人
 其創造ヲ蒙リシニ非ス即一人ニシテ男女二位ヲ含メ
 ルモノヲ造ラレタリ然後造物主ハ初人アダムノ脇腹
 ヨリ之ト同然ナル實體ヲ造レリ是ニ於テ男女夫婦顯
 ル夫婦ハ二位ナリト雖二個ノ異ナリタル人ニアラス
 婦ハ全ク夫ト異ナル本性ヲ有セルモノニアラスシテ
 即アダムノ肉ヨリノ肉骨ヨリノ骨ヲ分ナシモノナリ
 故ニ神カ人ヲ造ラントシテ三位協談ヲナセル時モ其
 協談ヲ實行セシ時モ共ニ單數ニシテ一個人ヲ指セリ

曰ク人ヲ造ラン曰ク人ヲ造レリ而シテ其エワヲ造ル
 ニ當リ人ヲ造ラントノ言ヲ復ヒセス何トナレハ其言
 ナ須タスシテ人タルヲ明ナレハナリアダム其妻ヲエ
 ワト名クエワトハ生命或ハ生命ヲ賦スル者ノ義ナリ
 蓋シエワハ總テ生人ノ母ナレハナリ(創世記三
 十ノ九)モイセ
 イガ人間ノ系譜ヲ始ムルヤ初造ノ夫婦アダムエワヲ
 以テス(創世記五ノ
 十ニ)神ハ此夫婦ヲ祝福シテ生メヨ(創世
 記一
 章ノ二
 八節)ト曰ヒ其血統ハ繁殖セヨ地ニ充盈セヨ(創世記
 一
 章ノ五
 節)ト曰ヘリ而シテ其血統ノイノ時ニ至リテ終ル(斷絶
 ニアラス蓋シノイモアダムノ裔ナリ是ヲ以テアダム

ナ洪水前ノ元祖ト稱シノイテ洪水後ノ元祖ト稱スト
 雖アダムガ本然ノ元祖ナルヲハ明ナリ蓋シ神ノアダ
 ムニ於ル恰モ根本ノ枝葉ニ於ルカ如クシテ一個ノ有
 機体ヲナスモノナリ是ノ如ク人ノ元祖ハアダムニシ
 テ万庶一人ヨリ出タルヤ明ケシパウロ曰ク罪ハ一人
 (元祖)ヨリ世ニ入り死ハ罪ヨリシテ死凡テノ人ニ及フテ
 致ス(羅馬書五章)(哥林多前書十)全人類ノアダムエワヨ
 リ出シ十三節斯ノ如ク聖書ニ著名ナルヲ問ハス「アレアダ
 ミト」アダムノ前ニ己ニ人類ノ存セシヲ唱フル説「ユ
 アダミト」人ハ一ノ根本ヨリ出テタルモノニ非ス數人

ノ元祖ヨリ出テタリトノ説等ノ諸説ヲ僞張シ漫ニ抗
 論ヲナスモノアリ請フ之ヲ左ニ論述セン
 「アレアダミト」ヲ唱フル者創世記ヲ引テ曰創世記其第
 一章ニハ初人(夫婦)ヲ神像ニヨリテ造ルトアリ第二章ニ
 ハアダムヲ地ヨリ造リエワヲ其脇腹ヨリ造ルト云ヘ
 リエワノ果シテ神像ニヨリテ造ラレシヤ否ヲ記セス
 ト以テ之カ藉口ノ材料トナス知ラス創世記第二章ノ
 記事ハ第一章ノ記事ヲ丁寧ニ反復セシ者ニシテ決シ
 テ他ノ人間ノ創造ヲ云フ者ニ非ルヲワシリイ曰ク第
 一章ニ神ハ人ヲ造リシヲ云ヒ而シテ如何シテ之ヲ造

リシヲ云ハス第二章ニハ如何シテ之ヲ造リシヤヲ示
 スモノナリ若シ單ニ造リシトノミ曰ハ、或ハ神ハ動
 物ノ如ク人ヲ造レリト思ハンヲ恐レテナリト次ニ反
 對者ハ曰ク夫カインハ地ノ農夫トシテ地ヲ耕スニ必
 シモ農具ヲ要セサルヘカラス誰カ農具ヲ作りシヤア
 ベルカ羊ヲ守ル時ハ既ニ盜賊アルヲ示スモノナリ若
 シ盜賊ナクンバ何ソ羊ヲ守ルヲ要センヤ是アダムノ
 前已ニ人アルノ証ナラスヤトソレ聖書ニカインノ農
 具ヲ發明セシモノヲ示サスト雖東方ニ於テハ今日我
 等ノ用ル如キ農具ヲ要セス其單便ニシテ粗製ナルノ

農具ハアダム若クハカインノ發明ニアラストナスヘ
 カラス而シテ其羊ヲ牧スルハ安ソ獨リ之ヲ盜賊防禦
 ノ爲ナリトナスヲ得ンヤ之ヲ驅テ草水在ル地ニ至ラ
 シメ之ヲ守テ害獸ヲ避ケ一ハ羊ノ安カラシカ爲メ一
 ハ羊ノ迷ハサランカ爲ニスルモノナリ焉ソ之レヲ以
 テアダム前ニ人アルノ證トナスヲ得ンヤ彼等又曰ク
 カイン弟アワエリヲ殺スヤ後ナイトノ地ニ徙リ妻ヲ
 娶リ聚落ヲ立ツトソレカイン何處ヨリ其妻ヲ娶リシ
 ヤ誰カ聚落ヲ成セシヤト之ニ答フル亦甚容易ナリカ
 インノ弟ヲ殺セシハアダムノ地ニ出テシヨリ大約百

二十九年ノ久ナリ而シテ此間尙七十年ヲ經過セシト
 セハアダムニ若干ノ子アリシヤ疑ナシ殊ニ全能者ノ
 祝福ヲ受ケタルモノナレハ左モアルヘキ筈ナリ予ハ
 テオドリトノ説ヲ舉テ以テ之ニ答ヘン曰クカインノ
 妻ハ其妹ナリ當時ニアリテハ兄弟姉妹ノ相婚スルハ
 必シモ罪ニアラサリキト是ニヨリテ村ヲ立テ町ヲ建
 ルノ疑問モ自然了解スルヲ得ヘシ「コアダト」ノ主張者
 ハ之ヲ「セツロキア」生理學心理學博言學地理學ニヨリ
 テ其説ヲ立テントス

第一 生理學ニ據ル者ハ曰ク人ニハ黑白亞非利加歐羅巴ノ如ク

ノ種類アリ体骨モ亦亞非利加人ト歐州人ノ異アリ耶
 蘇教一祖ノ説ハ到底信スヘカラスト予今暫ク論者ノ
 意ニ遵ヒ生理ノ學理ニ基キ人間生出ノ首源ノ唯一ナ
 ルヲ證セン夫レ人身ノ構造ハ文野トナク皆同一ナリ
 一枝ノ骨一枚ノ齒彼此決シテ多寡ノ差ナシ分娩ノ期
 性情ノ概、年齢ノ度、食物ノ類亞非利加黑人ヨリ歐州白
 哲人種ニ至ルマテ皆同一ナリ且其人種ノ何ニ属スル
 ナ問ハス苟モ人ト稱スルモノハ兩極ヨリ赤道直下ニ
 至ルマテ地球上皆接息スルヲ得ヘク其顔色ノ別、面度
 ノ差、假令黑白相反對シ六十五度ヨリ八十五度ノモノ

アリト雖思フニ顔色ノ別ハ氣候風土衣服ノ異ナルニ
 ヨリテ生シ來ルモノナリ現ニ猶太人ノ未裔離散分處
 シテ全世界ニ遍シ而シテ其露西亞獨逸英吉利等ニ居
 ル者ハ顔色白シト雖其印度ニ住スル者ハ黑色ナリ是
 レ以テ同一ノ人種ニシテ尙且ツ氣候其他ノ異ナルニ
 從ツテ其差異ヲ來スヲ知ルニ足ル而シテ腦骸ノ組立
 ノ異ナルハ多ク文化ノ程度智識ノ開否ニ關係スルモ
 ノニシテ中央亞非利加ニ住スル黑人ハ顔ノ角度甚小
 ナルモ歐洲文明ノ地ニ徙リシ黑人ハ角度漸々ニ大ナ
 ルヲ見ル熱帶ノ動物ハ之ヲ寒帶ニ移スヘカラス寒帶

ノ動物ハ抑之ヲ熱帶ニ轉スヘカラス若シ強テ之ヲ轉
 移スルヤ決シテ其生命ヲ保續スルヲ能ハス人ハ内外
 互ニ婚娶シ能ク其子ヲ舉クルト雖動物ハ然ラス一動
 物ノ他動物ト雜交スルヲアルモ更ニ子ヲ生ムヲナシ
 第二 心理學ノ證スル所ニヨルニ人ノ靈魂ハ其性質
 才能万邦ヲ通テ同一ナルモノニシテ或ハ亞非利加人
 ノ才能甚劣鈍ニシテ或動物ニ若カスト云フモノアリ
 ト雖然レモ米利堅ニアル亞非利加人ハ已ニ進歩シ
 往々技藝詩歌ヲ以テ名ヲ博スルモノアリホツテント
 ツヤハ黑人種ノ最劣等ナリト稱スルモ學術ヲ講シ語

學ヲ論スル才能ヲ具シ而シテ現ニハリストス教ヲ受テ其高尙ナル眞理ヲ解シ之ヲ其國語ニ顯セリ黑人種ノ兒童ト白哲人種ノ兒童ヲ同一ノ學校ニ於テ教育セシニ學力ノ進歩甚シキ懸隔ナカリシトハ己ニ英人ノ經驗シタル所ナリ嗚呼世ノ野蠻人民ヲ區別シテ之レヲ吾人以外ノ人種トナシ彼ノ禽獸ト相比スルモノ其心情甚疎傲ニシテ却テ或ハ野蠻ノ氣習アルヲ見ルナリ

第三 博言學ノ證凡ソ世界ニ國語ノ多キ方言ノ廣キ之ヲ一人ヨリ出テタリトハ何人モ思得サルコトニシテ

之ヲ非難スルハ其謂ナキニアラサレモ聖書已ニ之カ説明ヲナス處アリ曰ク神ハ言語ヲ濬セリ(創世記十一章自一節至十節)ト而シテ博言學ハ多年ノ經驗ニヨリ輓近頓ニ進化ノ狀ヲ呈シ有名ナル學士ハ大概人類ノ言語ヲ分テ一若クハ二ニ歸シイウレイ語若クハ「サンスクリット」語(或ハ他ノ國語)ヲ以テ言語ノ大本トナサントスル形勢アリ万民一祖ノ理益明ナラスヤ

第四 地理學ノ証遠洋ノ間ニ孤立シテ絶テ人ノ交渉スル痕跡ヲ止メサル遠島ニ人間ノ栖息スルヲ見レハ始ヨリシテ此ニ住スルモノニシテ決シテ移住ノ民ナ

ラサルカ如シト雖決シテ然ラサルナリ地理學ノ證ニ
 ヨルニ五大洲中皆古昔ヨリ相互ニ交通セル者ニシテ
 亞米利加ノ如キモコロンブスノ發見ニヨリテ始テ世
 界ニ著名ナルヲ得タリト雖地理學者ノ言ニヨレハ
 舊世界ト亞米利加トハクーク及白令海峽ヲ過キカム
 ナヤトカヨリアラスガ半島ニ至リ島嶼連接シ之ニ通
 スルヲ甚シキ難事ニアラス故ニ亞米利加ノ存在ハコ
 ロンブスニ先テ已ニギリキーノプラトン及シリイ
 ノデイオドル之ヲ知レリサレハ米國土人ハ元來其地
 ニ産シタルモノニアラス舊世界ヨリ移轉シタルモノ

ナルヲ疑ナシ亞米利加ニ於テ今尙亞細亞歐羅巴ノ風
 俗習慣及宗教禮儀ノ多ク保存スルヲ見ル是其明證ニ
 アラスヤ聖書ノ示ス處ニヨルニ人類ノ產地ハ中央亞
 細亞(メソポタミヤ)ニシテ此地方ヨリ各處ニ散居シタ
 ルモノナリ其亞非利加ニ轉シ亞細亞歐羅巴ニ散布セ
 ルハ自然ノ勢ニシテ素ヨリ言テ俟タス亞米利加ノ如
 キモ亞細亞ノ東北海邊ヲ經テ上陸セシモノナラント
 ハ容易ニ人ノ想察シ得ヘキヲナリ而シテ南洋洲ニ至
 リテハ何ノ處ヨリ來リテ此ニ居住シタルヤ之ヲ知ル
 丁頗ル困難ナリ然レモ一方ヨリ之ヲ論スルハ該土

人ノ言語風俗習慣ノ馬來人種ニ髣髴タルハ其亞細亞ヨリ轉住セルヲ證スルナリ彼等ハ大陸ヨリ海波ヲ經テ遠キ島々ニ殖民スルヲ能ハストハ斷言シ得サルナリ何トナレハ南洋諸島ノ構造ヲ考ヘ其動植物ヲ研究シタル學者モ此諸島ハ亞細亞大陸ニウゼランドノ殘遺ナリシト唱ヘタレハナリ又一方ヨリ之ヲ論スレハ假令大洋洲ハ大陸ト連續セスト雖古代ニ於テ玆ニ殖民シタルハ甚タ以テ奇トスルニ足ラス例ヘハ烈風ノ爲數人若クハ數十人ノ漁夫カ遠ク本國ヲ離レテ漂着セシモノアルヤモ測ルヘカラス且夫大陸ヨリ遠隔

島嶼ニ移轉セシハ古代器械ノ不完全ナルニ當リテアルヘカラサルノ事實ナリト云フモノアレモヨロニア以前既ニスカンダナワイヤ(瑞威地方)ノ人民ハ米國ニ來リテ轉居セシヲ歴史家ノ證スル處ニアラスヤ何ソ南洋諸島ニ人々ノ轉居セシヲ怪マンヤ古代人民即チエシプト人支那人ノ如キハ其存在ヲ數フレハ常ニ數百萬年ヲ數フ然レモ支那エシプト人ノ記スル處ハ決シテ實事ニ非スシテ徒ニ自國ノ古キニ誇ランカ爲ニ作爲シタルニ外ナラス古代記録ノ公平ヲ以テ見ベキモノハ獨聖書アルノミ其他ハ誕荒昧晦毫モ信スヘキナ

シ

人ノ組織

首章已ニ記載シタル如ク人ハ土ヲ以テ其形体ヲ受ケ
 嘘氣ニヨリテ其靈魂ヲ受ケタリ是ヲ以テ人ハ唯形体
 ノミノ物ニアラス又心靈ノミノ物ニ非ス即有形無形
 ノ二元素相合シテ一ト成ルモノナリ聖書ニ曰ク人生
 靈トナル(創世記二章七節傳)救世主身ヲ殺シテ魂ヲ殺
 ス能ハサル者ハ懼ル、勿レ(馬太傳十章)トノ言ニヨリ
 テ之ヲ見ルモ性質相反スル二物ヨリ成ルヲ明ナリ人
 ノ生命ノ無形元素ハ希臘語ニテ「プテウマ」或ハ「プシヒ

「ト云フ邦語ニテ之ヲ靈神ト譯ス靈或ハ神ハ無形ノ
 一物ニシテ智情意或ハ云フ智心力ヲ備ヒ自由ヲ有ス
 ルモノナリ其性質タル全ク物体ト異ナルモノナリイ
 エルサリムノ聖キリール曰爾自由ノ靈生活不朽靈智
 ナルモノヲ有スルヲ知ルヘシ大ワシリイ曰吾人ノヨ
 リテ以テ生活スル靈ハ靈妙靈智ノ活物ナリト而シテ
 或教師ノ靈ハ極メテ微塵ノ物質ナリト云ヘルハ決シ
 テ靈ノ物質ナルヲ示セシモノニアラス唯其有限的
 ノモノナルヲ示セルノミ是ノ如クハリストス教會ハ
 古ヨリ靈ノ無形ノ一物ナルヲ明示セリ

古ノ教師等ハ已ニ靈魂ヲ以テ体ノ構造ノ均和ナリ結果ナリト異説ニ對シ已ニ十分ナル解釋ヲ與ヘタリ今日唯物論者ノ言フ所亦古ノ異端者ノ言ト異ルナシ唯物論者ハ物理生理ノ研究ニヨリテ其說ヲ確メントスルモ竟ニ得ヘカラス理學ハ只有形事物ヲ研究スルモノニシテ形而上ノ現象ハ能ク實驗觀察ノ達シ得ル所ニアラサルナリ學者ハ人ノ目ヲ研究シ其錯雜多樣ナル機關ノ如何ヲ論定シ視官ノ動作法則ヲ知ルヲ得ヘシト雖若シ目ハ何ノ爲ニシテ存シ而シテ之ヲ器械ノ如ク使用スル者ハ果シテ何者ナルヤ實驗ノ覺知其レ

能ク之ニ答フルヲ得ンヤ然ルニ使用者アリテ目ヲ使用スルハ爭フヘカラサルノ事實ナリ又人ノ神經ヲ研究シ其構造作用ハ論定シ得ルモ若シ一步ヲ進テ神經ハ何者ノ爲ニ存スルヤニ至リテハ前者ト同ク實驗ノ以テ定メ得ル所ニアラス神經ハ電信線ノ如シ傳信アリト雖自由アリ智慧アル人アリテ之ヲ使用シ始メテ其用ヲナスコトヲ得ルモノナリ神經モ亦然リ神經其者ハ決シテ知覺スルニ非ス一我ナル者アリテ神經ノ傳導ヲ受之ヲ感シ之ヲ知ルナリ彼ノ腦髓ト智力トハ其關係至テ密切ニシテ殆ント別ツヘカラスト雖作

力ノ作用ハ則チ腦髓ノ作用ナリトスルモノハ是樂手ト樂器トチ同物視スルモノナリ肉體ハ尙樂器ノ如ク靈魂ハ尙樂手ノ如シ今智力ノ作用ヲ見テ之ヲ腦髓ノ作用ナリトスルモノ何ソ茲ト弄茲者トチ混スルニ異ナランヤ唯物學者ハ何ノ理アリテ目ト視ル人耳ト聽ク人神經ト感スル人チ同一ナリト云フヤ彼等ハ耳目ノミナラス并テ視司聽司チモ分析シ得タリヤ外部ヲ感觸スル神經ノミナラス又感觸スルノ能力チモ分析シ得タリヤ智力ノ器ノミナラス智力其者チモ分析シ得タリヤ如何ニモ彼等ノ云フ如ク神靈ノ作用現象ノ

原因ハ身體ト共ニ人ノ胎中ヨリ生スルハ殆ント神妙ニシテ窺測スヘカラサルモノナリト雖突如トシテ之ヲ論下シ靈魂ノ作用ヲ以テ直チニ之ヲ形體的ノ作用ニ歸スルハ亦甚膚泛ナラスヤ論者ハ其眼目ニ見ザルカ爲ニ電信ト技手トハ一物ナリトスルカ決シテ然ラサルヘシ故ニ靈魂ノ現象作用ノ原因ヲ人ノ胎中ニ歸セント欲セハ先ツ充分ニ其由テ來ル處ノモノヲ説明セサルヘカラス之ヲ説明スルヲナク猥リニ物理化學ノ運動ヨリ神靈ノ現象ヲ究メントスルハは無ヨリ有チ求ムルモノナリ若カス内部ノ實驗省察ニヨリテ靈

魂ノ現象如何ヲ探究センニハ吾人内部ノ實驗ハ證シテ曰ク靈魂ノ現象ハ全ク身体ニ拘ラス自ラ之ト異ナル者ニ屬シ官肢ノ作用ハ皆自主自由ノ靈魂ノ器具タリ器械タルニ過キス感覺力トハ五官殊ニ神經ト最モ親シキ關係ヲ有スルモノナリト雖其感覺ヲ生スルモノハ只靈魂アルノミ彼ノ智力ガ或ハ思考シ或ハ推斷シ或ハ想像スルノ作用ハ肉体ノ作用ト毫モ相似タル所ナシ況ンヤ德義ノ觀念宗教ノ觀念ニ至リテハ身体ノ作用ノ與ルヘキ所ニアラス屢全ク之ト反對ニ出ルコアリ宗教德義ノ爲ニ肉体ト戰ヒ其高尚ノ目的ノ爲

ニハ身命ヲ捐テ、顧ミサルコアリ是人ハ身体ノ外ニ靈魂ヲ有シ靈魂ト身体トハ全ク別物ナルノ證ニアラスヤ心靈ノ運動作用ハ身体ニアラス反テ靈魂ニアルヲ證スルモノニアラスヤ唯物學者ハ熱病風癩人ヲ引テ輒モスレハ身体機關ノ狂悖ニヨリテ靈魂ノ狂悖スルヲ證シ靈魂ノ作用ハ身体ノ結果ナリト主張スト雖是等ノ淺近ナル解説ハ決シテ靈魂ノ別物ナルヲ破ルコ能ハス已ニ云ヘルカ如ク靈魂ト身体トハ樂器ト樂手トノ關係ノ如キモノナレハ樂器若シ破損センカ樂手如何ニ巧妙ナル術アルモ復得テ美音ヲ奏シ人聽ヲ

側ツルヲ能ハサルヘシ請フ更ニ其證ヲ舉テ反對論者
ヲ駁セン

夫レ靈魂ハ肉体ノ作用全ク息ミタル時ニハ熟睡セル
時ニ當リテ靈魂ノ作用常ニ最切ナルヲ見ルモノニシ
テ人病ニ罹リ軀軀大ニ疲勞セル時若クハ老衰ノ時ニ
當リテ靈魂ノ作用却テ盛ニシテ思考力益深キヲアル
ハ以テ靈魂ト身体トハ全ク別異ノモノナルヲ知ル
ニ難カラス吾人ノ身体ハ常ニ變化スルモノニシテ腦
髓神經ト雖亦新陳交代スルモノタリ大概吾人ノ身体
ハ七年毎ニ全ク變化スルモノナルモ拘ラス獨意識

ニ至リテハ五十年ヲ經過スルモ依然トシテ其同一ヲ
失ハサルハ何ソヤ論者ノ言ノ如クナレハ意識ト雖彼
体ノ如ク神經ノ如ク其變化ヲ受ケザルヘカラス而シ
テ其決シテ然ラサルモノハ何ソヤ是靈魂ノ全ク別物
ナルノ明證ニアラスヤ今世界ニ存在スルモノハ皆物
質ノミナリト假定センカ物質ハ思考スルモノナリト
ノ定義ヲ下シ得ルカ夫レ思考ハ物ノ運動ニアラサル
ナリ器械的ノ作用ニアラサルナリ器械的ノモノハ自
由ナルモノニ非ス錯雜シタル者(器械ノ如ク)ハ單純ナ
ル者ニ非ス(靈魂ノ如ク)吾人ハ自由アリ物質ハ自由ヲ

生スルヲ能ハス實ニ唯物學者ハ或ハ人ニ自由ナシト唱フルト雖如何ナル強項論者モ自ラ善若クハ惡ナシテ我之ヲ爲セシニ非ス手ノ自動力ナリ足ノ器械的作用ナリトハ云ハサルヘシ實ニ唯物學者ハ德義ノ秩序ヲ亂リ自愛ト腕力トヲ以テ人世ノ制限ヲ立テントスルハ壓制家ナリト云フモ誣言ニアラサル可シ抑神經ハ特ニ腦髓ト親シキ關係ヲ有スルヲ論ヲ俟タスト雖神經ハ決シテ靈魂ニ非ス腦髓ハ決シテ意識ニ非サルナリ物質ハ心靈的ノ元素ニアラスシテ翻テ靈魂ノヨリテ以テ左右スル器械ナリ唯物學者論途已ニ

究スレハ常ニ左ノ難問ヲ以テ吾人ニ向フ曰ク靈魂果シテ存在セハ之ヲ吾人ニ視セト我等ハ斯ル疑問ニ向テ將タ何ヲカ云ハンヤ然レモ斯ル難問ハ唯彼等ノ偏見ヲ顯スノミ視聽ニ感スルノ物ノミヲ以テ之ヲ存在トナスカ如キ淺見モ亦甚シカラスヤ目ハ視ルモノナリ耳ハ聽クモノナリ然レモ視テ見エス聽テ聞ヘサルヲ實際吾人ニ存スルハ何ソヤ吾人ノ一物ニ注意スルニ當リテハ(主觀的ノ作用)五官ノ作用殆ント吾人ニ存セサルカ如シ是レ豈知ル者覺ル者ノ他ニ存スルカ爲ニ非スヤ目ハ自ラ靈魂ヲ視ルヲ能

ハス然レモ靈魂ハ自能ク目ヲ以テ視ルモノナリ五官ハ五官ヲ以テ靈魂ニ抵觸スルモノニ非ス而シテ靈魂ハ能ク五官ヲ使用シテ感覺スルヲ得ルモノナリ靈魂ノ作用其細淺ナル所ニ於テ尙然リ況ヤ高尚ノ智力世界ニ於テハ誰レカ之ヲ窺測ス可ケンヤ

德義世界ニアリテハ道德ノ組織法律ノ制定政治ノ編成等ノ權ヲ取ル良心ノ如キ宗教世界ニアリテハ神ヲ信シ義ヲ好ミ善ヲ慕ヒ永遠ノ福樂ヲ望ム宗教心ノ如キ皆自ラ肉体ノ作用ト異ナルヲ雲泥啻ナラス靈魂若シ肉体ノ結果ナラハ焉ソ能ク然ルヲ得ンヤ然ト雖

是唯一個人ノ私ニシテ一時ノ發動ニ止ルトモハ予等之チ一ノ妄想トシテ拒否辨斥スルモ可ナリト雖是皆世界万民ノ固有スル所ノモノニシテ一人モ之ヲ非斥スルノ權ヲ有セサルナリ若シ之ヲ非斥センカ是人間ノ品位ヲ蹂躪スルモノニシテ心靈的ノ殺人罪ヲ犯スモノト云フヘシ若シ人自ラ此心ヲ破滅センカ是心靈的自殺者ナリ心靈的ノ自殺ハ或社會ニアリテハ能クスヘキモ烝々タル人類ノ能クスル所ニアラサルナリ

肉体ノ自殺ハ人間或ハ之ヲ敢行スルモノアリト雖人類一般ノ意思ハ常ニ固ク之ヲ嫌惡スルモノナルカ如

レ聖書ニ我内ニアルノ人ヲ以テハ神ノ法ヲ悦フ惟我
 他法ノ我肢体ニ在ルアリテ我心ノ法ト戦ヒ而シテ我
 ナ擄ニシ我肢体中ノ罪ノ法ニ服スルヲ見ル(羅馬書七
 章自廿二
 節至廿
 四節)ト云ヘルハ天然固有ノ關係ヲ云ヘルモノニ非
 ス己ニ破壊シタル性情ニ就テ云フノミ肉体ト靈魂ト
 ハ相反シ相敵スルトノ教ハ物質ハ惡ノ元素若クハ結
 果ナリトノ誤解ヨリ起レルモノニシテ斯ル說ハ一般
 ハリストス教會ノ信奉スルモノニアラサルナリ靈魂
 ノ肉体ニ於ケル關係如何ナルモノニヤ素ヨリ得テ詳
 ニスヘカラスト雖二者相互ノ關係ナシトスルハ亦偏

說タルヲ免レス神己ニ肉体ト靈魂トヲ合シテ一人ト
 ナシ之レカ關係區域ヲ定メリ安ソ水ト火ノ如ク相反
 スルモノナランヤ
 希伯來書ニ曰ク蓋シ神之道活ニシテ且能アリ兩双ノ
 劍ヨリ利ナリ刺シテ靈ト氣ト及ヒ骨ト髓トノ間ヲ割
 ク(四章十
 二節)ト此文ニヨルキハ神(プチウマ)ト靈(プシヒイ)
 トハ体(サルコス)ト各別物ニシテ此三者相合シテ一人
 ナナスカ如シト雖バツフノ所謂(神)ト(靈)トハ二個ノ相
 異ナリタル元素ヲ云フニ非ス即チ同一ノ元素中高等
 ト劣等ノ區別ヲ示セシモノナル可シ哥林多前書ニ曰

ヘルアリ曰ク惟性ニ任スルノ人ハ神靈ノ情ヲ通セス
 其レ之ヲ以テ愚ト爲スニヨル且識ルヲ能ハス蓋シ必
 ス靈ニ由リテ識ルナリ然レモ聖靈ニ属スルモノハ度
 ラサル所ナシ而シテ己ハ人ニ度ラレス(二章十三節十四節)ト即
 一ハ神ニ照サレタル上等ノ智識ヲ有シテ自ラ天上ノ
 神靈世界ニ属スル者ニシテ一ハ靈眼未開カス肉体以
 上ノヲハ一モ知見スル所ナキモノヲ云ナリ古代ノ教
 師中時トシテ神ト靈ト体トヲ以テ人ノ三元素トシテ
 論スルモノアリト雖人ハ靈ト体ノ二元素アルノミ是
 唯道德ノ區別ニシテ實體ノ區別ニ非ルナリ故ニ神ト

云ヒ靈ト云フモノ一物ナリ只一ハ主トシテ肢体ヲ活動
 シ一ハ神靈世界ニ交通スルノ異アルノミ蓋シ人間ノ
 沈淪以來其本性ノ壊敗ニヨリテ心靈ノ力自ラ區別ヲ
 生シ一ハ高等全備ニ趣キ一ハ下等慾情ニ傾キ或ハ下
 等ヨリ上等ニ上リ或ハ上等ヨリ下等ニ下ルノ異ヲ生
 シタレハコソ斯ル名稱ヲモ要スルナレ初人罪ヲ犯サ
 、リシ時ハ何ソスル區別ヲ立ルヲ要セシナランヤ人
 ハ全ク唯靈魂ト肉体トヨリ成リテ全備無瑕ノモノナ
 リシナリ

前數章靈魂ノ説ヲ散説シタリ今茲ニ聖書ニヨ

リ更ニ其梗概ヲ示サン聖書ニ人ノ靈魂ヲ論ス
 ル心理學ニ示ス處ト異ナルナシ聖書ニヨル
 ニ人ノ最高ノ部ハ肉体ニ異ナル處自主獨立ノ
 靈魂ナリ救主曰ク靈魂活潑ニシテ肉体ハ疲弱
 スト靈ハ無形ニシテ單純ナリ(コリント前書二章
 ノ十一節 希伯來書
 十章ノ十二節 馬太二)自由ナルモノナリ(イサイヤ
 十六章ノ三十六節)不死ナルモノナリ(哥林
 十節 哥林多前書七章ノ三
 十七節 馬太十章ノ十一節)多(哥林
 後一節 五章)人獨リ智力アリ能ク眞理ヲ知り道理ヲ
 辨ス人獨リ自覺アリ我ノ我タルヲ知ル人獨リ
 德義ノモノナリ宗教的ノモノナリ人ニ斯ル靈

妙ナル作用現象アルハ是即人ニ特別ナル靈ノ
 元素アリテ上等ナル神靈世界ノ社員タルヲ
 証スルモノナリサレド人ノ地上諸物ニ秀出シ
 タルハ特ニ神ノ像ニヨリテ造ラレタルニアル
 ナリ故ニ人ハ一已獨立ノモノニシテ諸物ノ如
 ク其類ノ一種ニ非ス動物ハ一已單立ノモノニ
 アラス故ニ名分ヲ有スルナシ人ハ類ニ屬セス
 故ニ全人類ノ爲ニ生活スルニアラス全ク自己
 ナテ生活スルナリ人ハ國家ノ器械ニアラス
 人自身ハ貴重ナル價位ヲ有スルモノナリ故ニ

其自己單立ノモノトシテハ不死ナリ是永遠ナル神天地万物ノ主宰ノ反射ナリ故ニ創世記ニ人ノ神ニ肖ルヲ人ノ世界ヲ支配スルノ本分ト相合スルナリ(一章ノ廿六節)今我等人ノ靈性ト其能力才情ニ注意セハ人ノ神ニ似タル分子ヲ見出スヲ得ン神ハ純全タル至榮ノ靈体ナルカ如ク我等ハ靈魂ニヨリテ神靈的ノ活物タリ神ハ全備ナル無形物ナレハ我等モ亦我靈ノ主ナル才能ハ智情意ナリ是較々完全無限ナル神ノ性質ヲ象ルモノナリ神ハ睿智ナリ人モ亦己

ノ智力ニヨリテ己ニ必用ナルヲ知ルヲ得ヘシ神ハ至全ニシテ仁慈ナリ人モ其心情人ヲ愛シ神ニ頼ルノ心アリ神ハ自由ニシテ只己ノ意ニ任セテ功用スルモノナリ人モ有限ナリト雖自由ナルモノアリテ己ノ欲スル所ニ從テ行フヲ得ヘシ然レモ沈淪シタル後ハ神ノ像ヲ僅カニ存スルノミニシテ神ノ人ニ反射スルハ太陽ノ破鱗シタル硝子ニ反射スルカ如シ故ニ人若シ神ノ像ト肖トテ回復セント欲セハ基督ノ救贖ノ功ニヨリ其恩宏ノ方法ヲ活用シ一心一

意其原像ニ向ハサルヘカラス智ヲ以テハ至上ノ
 眞理ニ達シ意ヲ以テハ最上ノ善ニ達シ情ヲ以テ
 ハ至美ナル愛ニ達シ高上完全ナル人トナラサル
 ヘカラス使徒パウエル明ニ之ヲ示シテ曰ク宜ク
 爾カ心ノ靈ヲ以テ更ニ之ヲ新ニシ且衣ルニ新
 人即チ眞理ノ義ト潔トナ以テ神ニ循テ造ラル
 、者ヲ以テスヘシ(以弗所四章廿二廿三節)又曰ク彼此誑ヲ
 言フ母レ蓋爾己ニ舊人ト其行トチ脱ス且衣ル
 ニ新人ヲ以テス即チ新ヲ知者ニ成シ之ヲ造ル
 者ノ像ニ循フ(コロス三章九節)其意ニ曰神ノ像ニヨ

リテ造ラレタル初人アダム沈淪シテ舊人トナ
 リ眞理ヲ忘レ義ヲ失ヒ神肖泯焉トシテ慾情ノ
 中ニアリ其性腐敗シ遺傳愈久シテ敗壞愈甚シ
 ト雖ハリストス救贖ノ功ニヨリテ始メテ元祖
 初造ノ位地ヲ回復スルヲ得ト教會ノ教師等
 神之像ニ付テハ種々ノ點ヨリ之ヲ論シタリ其
 一ハ神ノ像ハ總テ人ノ体ニアルニ非スシテ無
 形ナル靈特ニ智慧ニアリト其一ハ人ノ自由ト
 不死ニアリトシ其一ハ人ノ万物ノ靈長タル位
 ニアリトシ或ハ人ノ靈ノ一ニシテ其能力(智情

意三、ナルニアリトス而シテ像ト肖トハ自ラ其
 區別ヲ立テ神靈ハ靈ノ本性ニ存シ肖ハ是靈能
 ナ開發進歩スルニアリトナス故ニ像ト云ヘハ
 智力ト自由ノ力ヲ有シ肖トハ人ノ可能的善美
 ニ進ミ神ニ肖ルヲナリ(ダマスクノイチャアンノ
 説)

ニスサノグリゴリイ曰ク我等ハ創造ノ時神像
 ナ受ケ自由ニヨリテ神肖ヲ得ラル、ナリ一ハ
 全ク賦與セラレ一ハ人ニ任セラレタリ是人自
 完全ニ進ミ神ヨリ其賞ヲ得ヘキカ爲ナリト蓋

シ人沈淪以來其肖ヲ失ヒタリト雖其像ハ尙存
 ス故ニ像ト生命ト共ニ神ヨリ賦セラレタリト
 雖モ人ハ自ラ之ヲ得サルヘカラス蓋シ像ト肖
 ノ區別ハ聖書ニモ之ヲ見ルヲ得ヘシ創世記
 ニ曰ク神ハ已ノ像ト肖トニヨリテ人ヲ造ル(一
二六節)ト曰フト雖其廿七節ニハ只像ニヨリテ造
 ルトアリ又其他處ニ於テモ神像ハ沈淪人ニモ
 存ス(創世記九章三節)ト云ヘリ「プロテスタント」
 教派ハ神像ト神肖トヲ區別セス人ハ造ラレテ
 ヨリ美麗ナルモノニシテ智慧能力モ完全進歩

ヲ要セサルカ如キモノニ造ラレタリトス故ニ
 人ノ罪ヲ犯シタルハ何故ナリヤニ至テハ牽強
 附會ノ説ヲナシ遂ニ人ハ行ニヨルニアラス信
 ニヨリテ救ヲ得ルト云フニ至レリ

各人ノ性質ヲ論ス

初人アダムエワヲ造リシ神ハ亦我々各人ノ造物主ナ
 ルハ疑フヘカラサルノ理ナリ神始メアダムエワニ生
 育繁多ノ祝福ヲ玉ヒ人ニ子ヲ生ムノ力ヲ賦シタリ此
 ノ祝福ノ力ニヨリ(自然ノ法)テ各人ハ元祖ヨリ生々相
 續クト雖直接ト間接ト異アルノミニシテ人ハ皆均ク

神ニ造ラル、モノト欲ハサルヘカラス故ニ聖書ニ初
 人ヲ造リシノミナラス吾等各人ヲ造ル(使徒行傳十七
 章廿八節)トテ
 曰ヘリ人ノ靈魂ノ神ヨリ出ルトハ聖書之ヲ證スル甚

明シ傳道書ニ曰ク塵ハ地ニ復リ靈ハ神ニ復ル(イサイ
 二章五節五十一
 章十六節)ザファリヤ書ニ曰ク主ハ人ノ靈ヲ造ル(十
 二章一節)

ト第五全地公會ノ議決ニ曰ク教會ハ神ノ言ニ從
 ヒ堅定ス人ノ靈魂ト身体ハ共ニ造ラル靈魂ハ先シテ
 身体ハ後ナルニ非スト此説ニ異同スル者三説アリ

第一 オリゲン及希臘ノプラトン等ハ靈魂昔存ノ説
 ナ唱フ其説ニ曰ク諸人ノ靈魂ハ世界存在シ先ニ存在

シタルモノナリシカ其罪ノ悔改ノ爲ニ身体ニ遣ハサ
レタルモノナリト

第二 フェオドリットアレキサンドリヤノキリール
及イエロニム及アリストーテルノ如キハ人ノ靈魂ハ
人ノ世ニ生ル、毎ニ特別ニ神ヨリ造ラル、モノナリ
トス

第三 テルトリアンニスサノグリゴリイ大マカリイ
等ノ執ル所ニシテ身体靈魂共ニ胎孕シテ成長スルモ
ノナリトノ説ナリ

第一 靈魂昔存ノ説ハ信スルニ足ラス何トナレハ我

等ノ靈魂ハ一モ前世ノコトヲ記憶スルコトナシ記性ハ
只一時ノ用ニ過キスシテ雲烟一過毫モ心ノ石板ニ存
スルナクンハ何ソ悔改スルヲ要センヤ若シ記性ハ永
存力アリトセハ吾人カ其罪ヲ記憶セサルハ如何誰カ
能ク知ラサルノ罪ヲ悔改センヤ聖書ニ靈ノ前世ニ存
在セシコトヲ證スルモノナシ翻テ明ニ罪ノ原由ヲ言テ
曰ク罪ノ人間世界ニ入ルハアダムヨリ始ルト此説ノ
取ルニ足ラサルヤ明カナリ而シテ世猶終生ノ間斯ル
奇怪ノ説ニ惑ハサレテ察セサルモノ多シ亦悲ヒカナ
第二 人ノ生ル、毎ニ神更ニ靈魂ヲ作りテ人ニ付ス

トノ説亦取ルニ足ラス獨聖書原罪ノ教ニ齟齬スルノ
 ミナラス人ノ世ニ受ケ來リシ處ノ罪惡災害艱難ヲ將
 テ之ヲ神ニ歸セサルヘカラサルニ至ル而シテ此説タ
 ルヤ又神六日ニテ創造ノ功ヲ終リシトノ言ニ投合セ
 サルナリ蓋聖書ニハ靈魂ノ更ニ造ラル、トノ意ヲ含
 ムニ非ス(傳道書十章七節)唯人ノ靈魂ノ神ヨリ出ルヲ云フ
 ノミ(希伯來一章四節)撰民ノ神ノ永遠ノ預知ニアルヲ云
 フ(創世記二十五章四十一節)章ニ於テモ唯靈魂ノ母胎ノ中ニア
 リテ已ニ生活スルヲ示スノミ決シテ更造ノ意ヲ示ス
 ニ非ス然ラスンハ神子ノ人トナリテ世ニ顯ハル、ヤ

何カ故ニ肉体ノミヲ取ラスシテ併テ靈魂ヲ取レルヤ
 第三ノ説ハ最適當ナリトス之ニ依テ原罪ノ遺傳及ヒ
 子女ノ兩親ニ似タルハ獨身体ノミヲ以テセズシテ靈
 魂ノ性質ニモヨルヲ説明スヘシ之ニ依テ人間ハ一
 祖ヨリ出ルノ理亦益堅固トナルヲ知ル可シ救主曰ク
 靈ニヨリテ生ル、者ハ靈ナリ肉ニヨリテ生ル、者ハ
 肉ナリ(約翰三章六節)肉ハ人ヲ指シ靈トハ神靈上ノ生命ヲ云
 フト使徒パウエルハ日神万國ノ民ヲ造ル之ヲ一派ニ
 本ツキ地ノ全面ニ居ラシム(行實十七章二十六節)其他(創世記一章
 太一章自一節至十六節)皆アダムヨリスル人ハ体ト靈ト
 希伯來七章ノ五十節

ヲ具ヘテ生ル、ヲ云フモノナリ蓋シ靈妙無形ナル靈魂ノ身体ト共ニ父母ヨリ出ルハ如何ニモ奇異ナルニシテ或ハ靈魂ノ靈妙ヲ輕スルノ嫌ナキニ非スト雖靈妙ハ深ク身体ノ中ニアリテ決シテ其靈妙無形ニ損セサルナリ故ニ靈魂ハ母ノ胎中ヨリ生スルト云フモ豈其靈妙無形ヲ損フノ理アラシヤ人ハ造物主ノ祝福ニヨリ人ハ人ヨリ出ツ活人トシテ活人ヨリ出ツ靈智ヲ備フル者トシテ靈智ナル者ヨリ出ツ靈魂ト身体アル者ハ靈魂ト身体アル者ヨリ出ツ即人各靈ト体トヲ具テ其父母ヨリ出ツトハ是不拔ノ眞理ナリ其他假令

異説ヲナスモノアルモ亦螻蛄ノ斧ニ過キサルノミ

人ノ本分ヲ論ス

ノ像ニヨリテ造ラレタル人ノ靈魂ハ明カニ人ノ本分ヲ示スモノナリ蓋シ人ノ主モナル本分ハ神賦ノ智能ヲ開發シテ益神ニ肖似スヘキニアリ而シテ森羅万象(神ノ智慧此ニ見ハル)ヲ觀察研究スルハ大ニ靈魂ノ開發ヲ助クヘシト雖其種子原因ハ自ラ人ノ靈魂中ニ存シ其本性ニ含有シタル德義ノ法則ハ善ク善ト實ト美ヲ愛ス(智ハ實情ハ美意ハ善)良心ハ德義ノ潔淨ヲ促シ智識ハ益高尚ヲ求メ心情ハ無限ノ福樂ヲ盼望スル

ナリ人ハ一心ヲ以テ專ラ不易ノ眞理、絶高ノ善、永遠ノ美ナル神ニ趨ルモノト云フモ可ナリ救主曰ヘリ汝等ハ神ノ純全ナルカ如ク爾等モ純全ナルヘシ(馬太五章四十節)故ニ靈魂ノ進歩ノ程度ハ永遠ニ涉リテ止ムヘカラサルモノニシテ人ノ純全ニ達スルハ決シテ一時ニ非ルナリ而シテ其不死ナルハ獨靈魂ノミヲ以テスルニラス實ニ身体モ亦與リテ然ルモノニシテ殊ニ身体一時ノ死アルハ人其本分ヲ誤リ神ニ離背シタルノ結果ノミ

試ニ元祖アダムノ狀況ヲ察セヨ實ニ其才德完好ニシ

テ其本分ニ適スルモノナルヲ知ルヘシ然シテ其才德完好ナルハ進歩ヲ要セサルモノニアラスシテ是ヨリ益發達スヘキ萌芽タルニ過キス其智ノ高尚ナルハ動物ニ名ヲ命シ妻ノ出所ヲ知り罪ヲ干セシ後スラ尙神ノ聲ヲ知得タルヲ以テ知ルニ足ル當時アダムノ名ヲ命シタルハ唯ニ事物ニ名ヲ付シ其區別ヲ立テタルニ過キストスルモ万有ヲ知ルノ深高ナル結果ナリトシテ之ヲ認メサルヲ得ス夫レ名ヲ付スルニハ事物ノ性質ニ曉通レ之ニ應スルノ稱呼ヲ見出サ、ルヲ得ス凡庸ナル想察力ノ得テ爲ス可キニ非ルナリ而シテ神ハ

アダムノ命シタル名稱ヲ嘉稱シタリトセハアダムカ
 動物ニ命シタル名稱ハ實ニ其智慧ノ深キヲ知ルニ足
 ル妻ユワノ造ラル、ヤ時ニアダム熟睡シテアリシカ
 覺ムルヤ否一見シテ其体ノ己ノ体ト同シキヲ覺認シ
 直ニ其性質ヲ判シ是ハ我骨ヨリノ骨肉ヨリノ肉ナリ
 (創世記二章)ト云ヒシノミナラス己ニ沈淪セシ後ト雖
 神ノ呼フ聲ヲ認ルヲ得タリ況ンヤ罪ヲ犯サ、ルノ
 時ニ於テチヤ其心靈ノ高尚思フ可キニアラスヤサレ
 凡初人智慧ノ高尚ナルハ博學多識ヲ以テスルニアラ
 ス只其本然ノ才能然ルナリ素ヨリアダムノ智慧有限

ナレハ勉勵ニヨリテ時ト共ニ開發増進スヘキモノニ
 シテ聖書一モアダムヲ以テ完全ナル智者トナスモノ
 ナシ(プロテスタント)教派ハ智者トナスアリ翻テ其魔
 鬼ノ姦計ニ陥リシハ其智慧ノ稚軟ニシテ經驗ニ富マ
 サルヲ證スルモノナリ
 初人徳義心ノ高尚ナルハ彼等裸体ニシテ少シモ耻ヲ
 感セサリシニヨリテ證スヘシ(創世記二章)所謂耻辱ハ
 我不足欠點ヲ覺フルニヨリテ生スルモノニシテ殊ニ
 衷情ノ不規則ヨリ起ル初人互ニ相配サレタルニ當リ
 敢テ自ラ欠點ヲ覺ルヲナク徳義ヲ履行シ欲情ノ不規

則ナルヲ感スルヲナシ二人ノ心ハ誠ニ平穩ニシテ何等ノ不快ヲ覺エルヲナク其高尚ナル意思ハ正ト義トニ向テ進歩スヘカリシカ神ノ慈誠ヲ破ルト共ニ始テ其意思ニ不正ナル發動ヲ生シ來レリ(創世記三章十節十一節)ソロモシ曰ク神ハ人ヲ正シキ者ニ造レリト初人罪ニヨリ其正ヲ失ヒ方向ヲ反對ニ取リテ此世ノ利福ニ趨ルモノトナレリ使徒パウルハリストスヲ後ノアダムト名ケ初人アダムノ無罪潔白ナル後ノアダム即チ主基督ノ無罪潔白ナルカ如キヲ示ス然レモアダムハ自ラ奮發シテ善行ヲ求ムヘキモノナリ蓋シ菓戒ノ試験ハ

正ニ之ヲ示スモノニアラスヤパウルハアダムヲ靈ニ屬スル者地ニ屬スル者ト名ケハリストスヲ神ニ屬スル者ト名ケ故ニアダムハ靈的ヨリ神的ニ進歩スルヲ要スルモノナルヤ明カナリ而シテ初人ノ身体ハ亦其靈魂ノ高尚ニ適シタルモノニシテ疾病ナク艱難ナク自ラ不死ノ者ナリト而シテ其内外ニハ一モ其機關ヲ害スヘキ原因アルナク内ハ美麗ナル平安ヲ覺エ外ハ万物調和シテ秩序整然タリ而シテ其食物ハ人ノ体ニ適シタル菓實ニシテ飲物ハ天然清潔ナル水ナリ而シテ安穩ニシテ度ニ適ヘル眠ハ以テ健康ヲ保全シ前ニ設

ケラレタル生命樹ハ之ヲ食ヘハ唯病患憂苦ナキノミ
 ナラス自ラ不死ナルヲ得タリ初人若シ罪ニ陷ルヲナ
 クンハ其身体モ如何ニ美麗ニ如何ニ悠久ナリシカ誰
 カ之ヲ想像スルヲ得ンヤ而シテ其萬物ニ對スル權
 カハ自ラ神ノ定ル所ニシテ(創世記一章)王ノ管轄ニ於
 ルカ如ク人ハ萬有ノ主タリ長タリ棟梁タルモノナリ
 而シテ人ノ罪ニ入ルヤ隨テ万有モ亦其破壊ヲ來シ荆
 棘牡狼ノ害ヲ見ルニ至レリ聖書ニ造物ハ人ノ爲ニ服
 シ切ニ救贖ヲ望ム(羅馬八章自十九節至廿二節)ヲナ云ヘリ萬物ハ神ノ
 全備ノ反射ナリト雖自ラ神ノ鴻恩ヲ感謝スルノ知覺

ナシ故ニ人ハ萬物ノ絶巔トシテ萬物ト造物主トノ聯
 和一致スル所ノ者ナリ人ハ王ナリ能ク萬物ヲ治理ス
 司祭ナリ無智ノ物ニ代リテ神ヲ感謝シ神ヲ光榮ス預
 言者ナリ造物ノ言フ所ヲ解ス人ハ萬物ニ對シテ此ノ
 如ク神ニ對シテ甚親シキモノナリ初人樂園ニアリテ
 受有シタル最大幸福ハ其神ト合体スルニアリ故ニ神
 常ニ全能ノ力ヲ以テ其靈魂身体ヲ保護長養スルヲ父
 母ノ子ニ於ルカ如ク師傅ノ子弟ニ於ルカ如クナリシ
 初人ノ樂園ニアル實ニ不可言ノ快樂ヲ感シタリイテ
 アン曰ク神ノ造リシ樂園ハアダムトエワニ取リテハ

王宮ノ如ク自ラ快樂ノ聚ナリエデムハ樂ヲ意味スル
 モノニシテ身体ハ勝美ノ地ニ立テ靈魂ハ比較スヘカ
 ラサル高尙美靈ナル處ニ立テリ而シテ巳ノ衣服ハ神
 ニシテ神ノ恩寵ヲ衣神使ノ如ク神ノ光榮ヲ眺メタリ
 ト初人樂園ノ説ハ諸方ニ傳播シタルカ如シ蓋シ諸國
 ニ黄金世界ノ説アルハ全ク想像ノ構捏ニアラスシテ
 恐ラクハ古代ヨリ子々孫々相傳ヘタルモノナラン支
 那ニ黄金世界ノ説アリ印度ニモ不死ノ傳アリペルシ
 アグリシヤノ詩家ノ記事及ロマノ神世説等皆然リ之
 ヲ要スルニ神人ハ靈形共ニ高尙ニシテ善ク其本分ニ

適シタルモ人ハ却テ之ヲ守ラスシテ快樂ノ代リニ悲
 哀ト困難トヲ取ルニ至レルモノト謂ハサル可ラサル
 ナリ

明治二十二年七月一日出版
明治二十二年七月一日印刷

定價金二十五錢

編輯人

島根縣士族

吉村鐘一

東京神田區駿河臺東紅梅町
六番地寄留

東京府士族

發行人

武俣欽明

東京神田區錦町二丁目
六番地

東京々橋區和泉町壹番地北澤活版所

印刷人

北澤久次郎

全 神田錦町二丁目六番地

進々

全 神田區駿河臺北甲賀町十三番地

愛々



大賣捌所

全

東京神田區錦町一丁目十一番地
十字屋

全

全 々橋區銀座三丁目二番地
十字屋

全

全 芝區柴井町十六番地
森屋

賣捌所

東京

丸善商社 博聞社

大坂

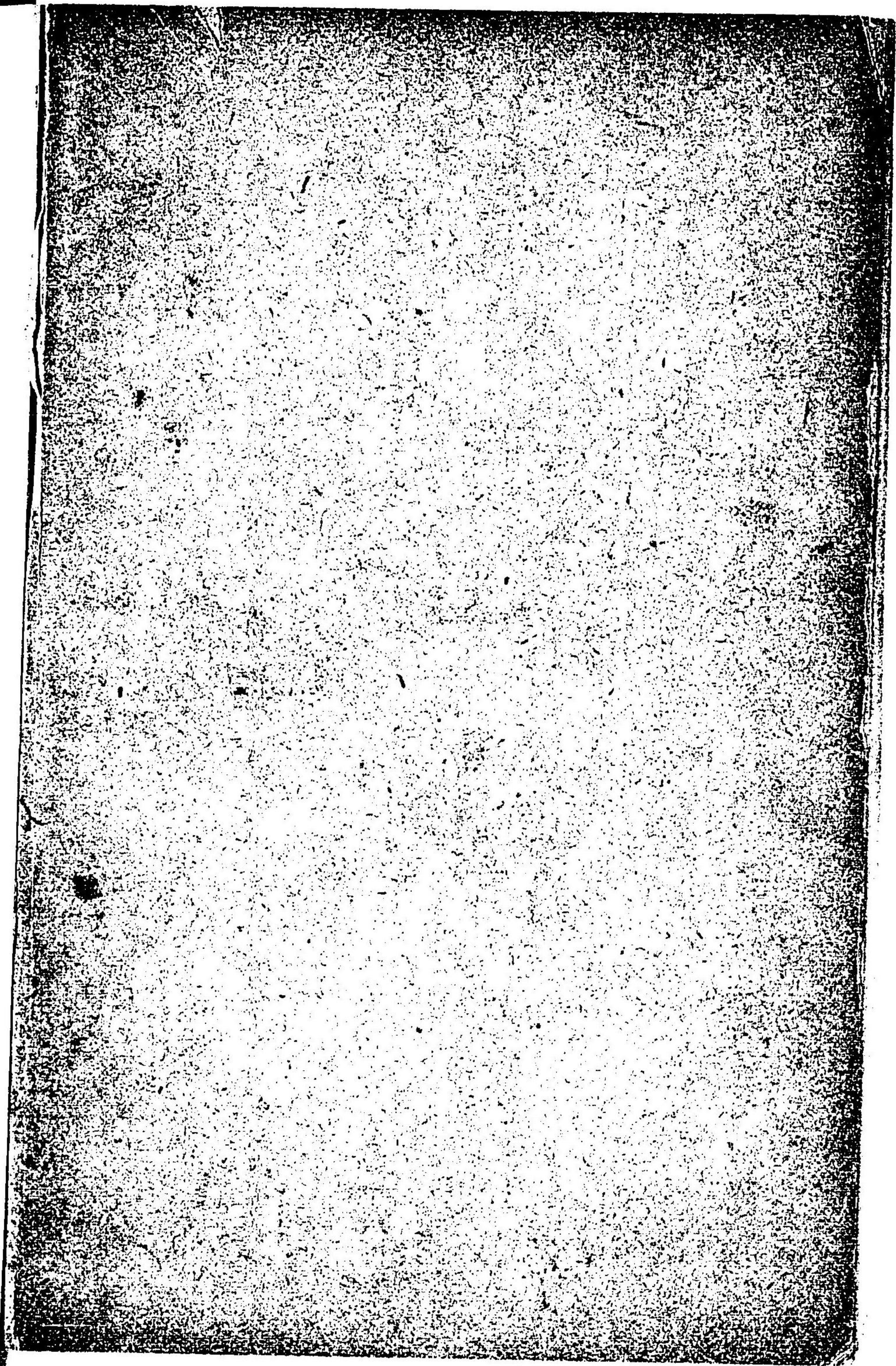
梅原龜七 柳原喜兵衛
盛春堂 無外書房

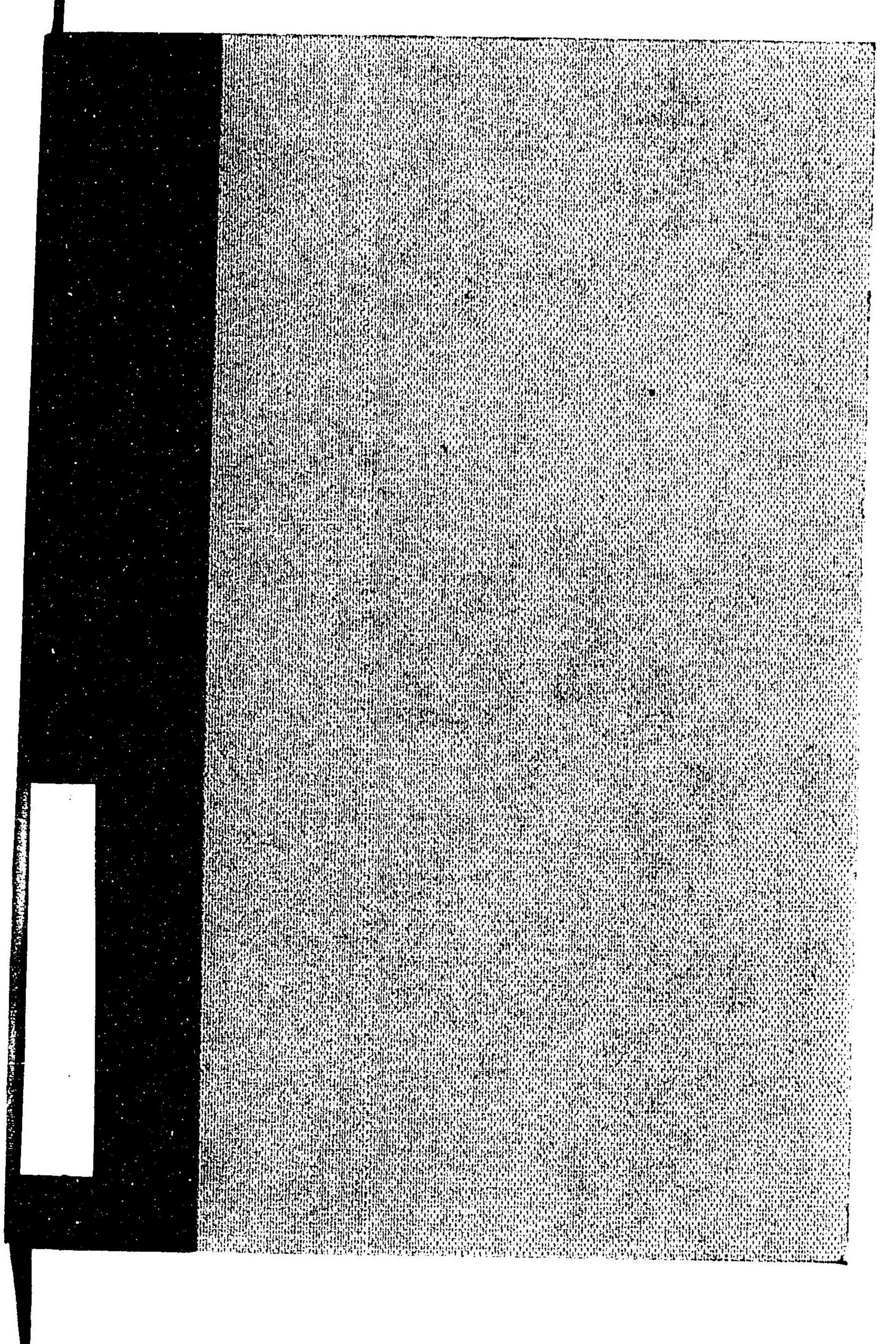
京都

大黒屋 村上勘兵衛

仙臺

伊勢安





真理の柱礎

吉村鐘一編

国立国会図書館

特21

142

020846-000-6

特21-142

真理の柱礎

吉村 鐘一(天囚逸士) / 編

M22

ABI-0675

